

## 諏訪地域信州こどもカフェ推進事業

### 取組に至る背景・事業の目的

諏訪6市町村の行政、NPO、市民団体、企業、公的機関によるネットワークを構築し、「食事提供」「学習支援・遊び」「悩み相談」「情報」「居場所」の分科会に分かれ専門性を高め、それぞれの分科会が連携することで、総合的な子どもの居場所の促進に努めている。

多くの参加者を増やすため、情報を発信し機運を高め地域住民が主体となって取り組む総合的な子どもの居場所「信州こどもカフェ」推進のためのプラットフォームづくりを行っていく。今年度は、マップとリーフレットの作成・配布により地域内の子どもたちに居場所の存在を知ってもらうとともに、引き続き普及・啓発活動を継続し、諏訪地域における「信州こどもカフェ」の推進に取り組む。

### 事業内容

こどもカフェマップ、リーフレットの作成

編集委員会（運営委員7名、公募の住民3名）でマップを作成。保育園、幼稚園、小中高の全児童生徒へ配布を行い、公共施設、登録団体、協力企業へも配布した。

- ① 月刊ぷらざへの広告掲載  
「月刊ぷらざ」へ居場所の開催情報を毎月掲載した。
- ② 信州こどもカフェ普及推進のための交流会を月1回、オンラインや対面により交流会を実施した。



【ハラカツ！\*での交流会】

\*原村で子どもの居場所づくりを考え実施する団体

### 事業効果

- ① マップ掲載の募集により、登録団体数が97団体（前年より19団体増）に増え、マップには57件の居場所の情報を掲載した。協賛企業25件で地域との連携も深まった。全児童生徒への配布や各所への設置により、幅広く住民の目に留まるようになった。また、行政との共同での配布により、各自治体も民間の居場所を知るきっかけにもなった。リーフレットの作成により当団体の活動を整理し、多くの方へ知ってもらえる内容をつくることができた。
- ② 毎月の地域のフリーペーパーへの継続的な掲載によりこれまで居場所に繋がらなかった地域住民の居場所への参加を促し、掲載希望団体の新規登録もあった。
- ③ 年12回オンラインも活用し行うことで、コロナ禍で従来の活動ができない中、他団体との情報交換ができ、活動に活かすことができた。課題を中心としたテーマと、実際の活動団体を訪問し行うことで、互いを知り活動の工夫など意見交換をすることができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

コロナ禍でもできる形を模索し、オンラインや会場実施との併用で、活動を止めることなく編集委員会や交流会を実施した。登録団体から公募した編集委員も参加し、協賛企業など地域の多様なセクションを巻き込んで活動した。フリーペーパー月刊ぷらざの掲載は、多くの反響を呼び、登録のこどもカフェからも新たな参加者が増えた、活動を知った住民とつながった、などの声をいただいた。

交流会では、普段の活動ができない団体同士が、お互いの工夫を共有し活動に活かすことができたという声が聞かれた。また、新たにこどもカフェを開きたい住民も参加し、実際に活動を開始するきっかけとなった。

各団体が抱える課題を団体同士や行政、企業との連携で解決していく形の土台を形成できたことで、今後もさらに連携できる仲間を増やし、関係性を深めていく取り組みを続けていく。

#### 【選定のポイント】

団体間の連携強化、協賛企業の積極的な参画、地元誌を活用した一体的な情報発信を行うことにより、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりの広がりが期待される。

団体名 諏訪圏域子ども応援プラットフォーム 連絡先 090-1865-7933(事務局木村) kodomoptsuwa@gmail.com http://kodomoptsuwa.com/	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">事業タイプ</td> <td style="padding: 5px;">ソフト事業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">事業費</td> <td style="padding: 5px;">624,330円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">支援金額</td> <td style="padding: 5px;">495,000円</td> </tr> </table>	事業タイプ	ソフト事業	事業費	624,330円	支援金額	495,000円
事業タイプ	ソフト事業						
事業費	624,330円						
支援金額	495,000円						

## 障がいがある人もない人も地域でつながる コミュニティカフェと作業所の創設

### 取組に至る背景・事業の目的

泰阜村は子供と地域住民を繋ぐ交流の場や機会が少ない。全国的に増えているこどもカフェは都市群に集中しており、田舎では必要とする子供がいてもこどもカフェがない地域が多数あり、泰阜村も例外ではない。一方で、泰阜村には障がいのある人が働いたり、過ごせる場所がない。泰阜村の障がい者は村外の障がい者施設や事業所へ行っているのが現状で、地域の中に障がい者の居場所がない。このような泰阜村の背景を踏まえ、子供や障がい者、地域住民の誰もが気軽に足を運びやすい開放された「カフェ」をつくり、地域住民と子供、障がい者との交流の場を作ることが必要と考えた。そこでこどもカフェを開き、地域の中に子供と障がい者の居場所をつくるのがこの事業の目的である。

### 事業内容

- ①こどもカフェ開催・・・月1回以上の開催（9/27、10/25、11/22、12/25、1/8、2/21、3/24、3/31）
- ②カフェ運営・・・火、水、金、土曜日営業
- ③ランチ配達・・・カフェに来ていただくお客様が多く、実施せず。
- ④作業場の運営・・・高齢者施設レクリエーションの下準備など
- ⑤カフェでイベントの開催・・・アートフェス、泰阜親の会、エイサー三線教室、プログラミング教室、鹿革クラフト体験など



【こどもカフェの様子】

### 事業効果

- ①カフェでは飲食だけでなく、様々なイベントや展示会、更にサークル活動や学習教室なども開催したことにより、多くの地域住民の利用があり、多世代にわたる交流の場となった。
- ②子ども食堂の開催、プログラミング教室、クラフト体験など、子供が興味を持つイベントを開催し、地域の子供たちがカフェを利用する機会が多くあった。子供たちが気楽に過ごせる場所となった。
- ③村内、近隣町村の障がい者がカフェの接客や作業場スペースで作業を行い、地域の人との交流の場となった。また、店内に近隣の障がい者施設の商品販売スペースを設け、商品陳列などを障がい者に一緒にしてもらい、障がい者の村内における社会参加の場の一つをつくれた。



【地域の障がい者による作業】

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

コロナ禍であり、こどもカフェやイベント、各教室の開催方法をその都度苦慮した。今後は、地域住民の交流の場となるのがカフェの目指す姿であるということを知ってもらい、気楽に利用してもらえよう、イベントや展示会、学習教室やサークルなどの活動を継続していきたい。一方で、障がい者の社会参加の場であるカフェという位置づけを地域の人に更に理解してもらいたい。作業場の運営にも力を入れると共に、接客などカフェの仕事も障がい者と一緒に行っていきたい。

#### 【選定のポイント】

コロナ禍にもかかわらず多くの地域住民がカフェを利用し、子どもや障がい者の居場所作りにつながっている。また、泰阜村のような農村部でも地域住民と子どもや障がい者を繋げるコミュニティスペースのニーズを確認できたため、今後近隣市町村にも同様の取組が広がっていくことが期待される。

団体名	特定非営利活動法人ラブリーズ（飯田市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	カフェ みちばたのたんぽぽ 0260-26-2305	事業費	1,475,286円
ホームページ	<a href="https://www.facebook.com/michibatatanpopo">https://www.facebook.com/michibatatanpopo</a>	支援金額	1,112,000円

## 未来につながる暮らしのために すべての子どもに「家庭」を実践する事業

### 取組に至る背景・事業の目的

長野県では、約 700 人の子どもたちが家庭を離れ、「里親家庭」や乳児院・児童養護施設などの「施設」で暮らしている。

平成 28 年に児童福祉法が改正され、国は乳幼児の家庭養育原則の徹底に向け、里親委託率 75%以上を実現するように提言している。

しかしながら、里親に対する社会一般的な認知度の低さや里親家庭に我が子をお願いすることに抵抗を示す実親、地域内の里親家庭数の不足などの諸問題があり、国が目指す指数に大きな課題が表れている。

こうした状況を踏まえ、全ての子どものしあわせを本気で考え、官民協働での里親周知を目指し、松本赤十字乳児院と協働して里親理解につながるツールの作成と情報発信を試みた。

### 事業内容

里親制度について理解を促す新しい試みとして啓発用絵本「里親って なあに？」の制作を実施。

里親に対する社会一般的の認知度の低さや、子どもを受け入れる里親家庭の不足などの様々な問題により、子どもたちが「家庭」で暮らせる機会を奪っている現状を踏まえ、絵本というツールを用いて、里親に対する正しい理解を促すため、里親や乳児院の職員の皆さんの意見を取り入れて絵本、ガイドブック、チラシを制作。



【作成した絵本「里親ってなあに？」】

### 事業効果

- ・支援金を活用して、絵本 200 冊、ガイドブック 200 冊、チラシ 1,000 部を制作。
- ・信濃毎日新聞、MG プレス、中日新聞、市民タイムスが取材し、紙面に紹介されたことで、一般の方の問い合わせもあり一か月の間に 200 冊が希望者に届けられた。
- ・継続してテレビ松本等の取材が入り、絵本をツールに里親制度の周知を広く行うことができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・絵本の主人公を人物画にするか抽象画にするか悩んだが、最終的にはイメージが固定されない抽象画とした。あたたかみのある雰囲気仕上げたい、手触りがよく長く大切に読んでもらいたいという願いを叶えるよう、紙質や製本、製本表紙加工に工夫を凝らした。
- ・この絵本の魅力は、里子のこころちゃんが生んでくれたお母さん、お父さんのところに戻る 16P の見開きページ「あなたがつくるしあわせのカタチ」という世界にひとつしかない手づくり絵本である。
- ・コロナ禍のため絵本のワークショップができず、絵本を手にしてくださった人と直に絵本をツールに対話できる機会を失ったことは残念だった。
- ・この絵本の語り手を増やし「里親」を知る人が増えていくと幸いである。
- ・絵本（第 2 刷）、ガイドブックの増刷をしていく予定。市町村の里親制度説明会場での読み聞かせの実施や、学校図書館等に絵本を入れていただけるような展開をしていきたい。
- ・活動を継続させるために、引き続き松本赤十字乳児院や中信地区里親会、児童相談所と連携し、市町村の里親理解を促すツールとして絵本を活用し意識啓発と里親育成に取り組む。

【選定のポイント】子ども達が安心して「家庭」で生活ができる環境をつくっていくためにも、里親制度は重要である。その里親制度の認知をひろげる取り組みとして評価できる。

団体名 子どもの育ちを支える会

連絡先 松本赤十字乳児院 電話：0263-31-5203

ホームページ



メールアドレス satooya@matsumoto-nj.jrc.or.jp

事業タイプ

ソフト事業

事業費

858,497円

支援金額

657,000円

## 「我が事丸ごと」地域づくりプロジェクト

### 取組に至る背景・事業の目的

並柳団地町会には外国籍・ひとり親家庭・独居老人・身体精神弱者が多く、町会全体の2/3を占める。このような中で、住民として並柳団地が抱える「子育て」「高齢者の居場所」「生活困窮者・身体精神弱者の支援」の3大問題を解決したいと思う背景がある。

地域住民だけでは困難なことも様々な支援団体や行政との共同・連携で解決できることへの糸口を見出すための施策が必要であると考えていた。

1. 子育て：放課後、児童クラブの利用ができない事情がある子供の居場所づくりとしての「なみカフェ」と並行して、常設の居場所づくり
2. 高齢者の居場所：町会全体の1/4を占める独居老人がいるが、老人クラブがなく、集団に入れられないなどの理由で適切な居場所がないと思っている高齢者の居場所づくり
3. 生活困窮者・身体精神弱者の支援：人口減少や高齢化で年々役員の担い手不足が原著に出ており、役員の負担も大きく、機能が破綻しかけている。このため、役員だけでは支援が行き届かないことから、有志やNPO等と連携する必要性

これらの課題を解決するために子ども、高齢者、生活弱者に寄り添う「居場所」の運営を実施した。

### 事業内容

地域の困りごとや課題を解決するために、地域住民や支援団体、行政が共同、連携して解決の糸口を見出す取り組みを実施。

・「子育て」では居場所のない子ども達の居場所として毎日立ち寄れる環境と親の就労環境による食事の提供など実施した。コロナ禍にあり、食事の提供から食材やパンの配布に切り替えた。

・「高齢者の居場所」では、孤立している独居老人の拠り所として、住民交流イベントの開催や事業相談を開催。

・「生活困窮者・身体精神弱者」の支援では、居場所としての定着や世の中で役立つ生きがいなどを共に模索する場所としての活動を実施。



【子どもの居場所づくり活動の様子】

### 事業効果

・「子どもの居場所」では毎日立ち寄る子ども達の姿があり、何気ない会話から困難事例の発見や支援につながった。

・「高齢者の居場所」からフラワーアレンジメント教室を楽しみにする姿や生活の困難を相談する人が増え、具体的な支援につながった。

・より困難な事例に対しても寄り添うことができ、専門機関につなげ、安心できた事例もあった。

・「生活困窮者・身体精神弱者」のよりどころとなる場面も多々あり、その日の気分で来れなくても、常に居場所が存在するという安心感を持たせることができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

・コロナ禍で密を避けることに配慮する必要がある中で、「居場所」の機能は地域住民にとって必要であることが認識された。話したくてもどこにも行けないことがストレスの要因になった話も多く出た

・今後も継続できる「居場所」として維持するためには、様々な支援組織や行政との連携は必須であり、引き続き外部の支援・連携を受けることや住民のお互い様の意識が育つ取り組みをして継続した「居場所」にしていきたい。

【選定のポイント】生活困窮問題が集中して現象している問題を捉え、幅広いアクターとの連携を基にしながら、支援活動や居場所づくり実践を展開している点は高く評価できる。

団体名 並柳団地まちづくり協議会 (運営：NPO 法人ワーカーズコープ松本事業所) 連絡先 0263-75-3135	事業タイプ ソフト事業 事業費 1,335,307円 支援金額 740,000円
--	--

## 信州上田“やまほいくの里山”プロジェクト： 暮らしと自然の再展望～自然保育の可能性をかたちに～

### 取組に至る背景・事業の目的

- 「自然保育」とは、「豊かな自然環境や地域資源を積極的に活用した様々な体験活動によって、子どもの主体性、創造性、社会性、協調性等を育み、子どもが心身ともに健康的に成長することを旨とした保育」である。
- 2015年4月に長野県が「自然保育認定制度」を創設し6年が経った。本事業は、県の幼稚園、保育所、認定こども園、野外保育園等の幼児教育施設において実施されている「自然保育」の営みについて、保育者、保護者、保育者志望学生、研究者が語り合う場を創り、多様な立場から「自然保育」の教育的効果を検証し、その価値を提唱していくことを目的とする。



【子どもと自然保育 BOOK と研修会風景】

### 事業内容

- 長野県の幼稚園、保育所、認定こども園、野外保育園等の幼児教育施設において実施されている「自然保育」の営みについて、保育者、保護者、保育者志望学生、研究者が語り合い、保育者自身が自然保育の意義を他者に説明できることを目指して研修会と研究会を開催。
  - ・研修会2回（参加者人数101名）、研究会3回（同27名）
  - ・県内自然保育実践施設見学2ヶ所  
（伊那市「山の遊び舎 はらべこ」13名、安曇野市「響育の山里 くじら雲」10名）
- 多様な立場から「自然保育」の教育的効果を検証し、その価値を提唱するためのガイドブック『子どもと自然保育 BOOK』を作成（730部発行）

### 事業効果

- 研究会、研修会ともに目標を超える参加者（キャンセル待ち発生）、満足度アンケートも90～100%と計画の90%を上回る。
- 研修会、研究会を通じて、参加者は幼児期における自然保育を行うことの意義、他園の自然保育の実践から自然保育の教育的効果・生じるリスクを、改めて知り・検討する機会を得た。
- 全ての幼児教育施設で使用できる『子どもと自然保育 BOOK』は、その狙いである「保育者が保護者等に自然保育が子どもの育ちに必要である理由を説明できる」こと、「地域の人が自然保育と子どもに対する理解を深める」ことを実現している。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- R2年度に取り組んだ地域資源の活用や地域との向き合い方をさらに発展させ、SDGsを取り入れた自然保育の在り方についても検討する。
- 現場の保育者が自然保育実践を発表できる機会として、実績報告会を実施する。
- 幼児期から学童期へとつながる自然保育の学びについて考察を深めるために、幼稚園・保育園・認定こども園・野外保育園と小学校が連携できる機会を作る。地域における自然保育の課題解決に向け自治体とも連携していく。

#### 【選定のポイント】

- ・幼稚園と保育園と野外保育施設、また公立と私立、実践者と学生と研究者といった垣根を越えて、日頃の保育実践について意見交換を行い、相互に学びを深めることができた。
- ・そのことにより、「自然保育」の具体的な取組のイメージが地域の保育・教育関係者に共有されるようになった。改めて地元の自然や地域資源と向き合うきっかけとなり、長野県が推進する「信州型自然保育認定制度」の普及・理解の発展に繋がっている。
- ・『子どもと自然保育 BOOK』は全ての幼児保育施設で使用でき、保育者等からも好評を得ていることから、他地域への波及効果も期待できる。

団体名 学校法人北野学園 上田女子短期大学（上田市）	事業タイプ	ソフト事業
メールアドレス chiiki@uedawjc.ac.jp	事業費	1,746,838円
	支援金額	1,397,000円

## ポニーと森であそぼう事業

### 取組に至る背景・事業の目的

子育て支援の必要性、不登校の子どもやその家族に対する支援の場が求められる中で、森林の中でポニーと触れ合うだけでなく、ポニーの体温を感じながら自然の中で本来の子どもらしさが育つ場となり、子どもたちの心のバランスの場の一つとなる、地域の居場所としての広がり子どもたちの居場所作りを目指してきた。「馬」と「自然」の環境を活かして、一人一人の子どもがいきいきと過ごし、心豊かな子どもがたくさん育つ場になって欲しい。ここまでの活動により厚みを増していくために、多くの大人（スタッフ）に協力を仰ぐため、牧場体験プログラム（有料）の導入を考えていきたい。その先で、子どもを中心に家族や地域の大人たちも募って、多くの人たちの居場所としての活動にしたいと考えている。

### 事業内容

#### 【地域重点テーマ】

#### ① 「ポニーパーク ぽっこ」 全12回

・一人一人のペースを大切に、牧場の自然環境を活かし動物のいる場を楽しみ、ゆっくり安心して過ごせる場の提供。

（内容） 牧場体験・ポニーのお世話・馬房掃除・ポニーのふれあい・乗馬・外遊び・子育て支援・発達支援・不登校の子どもたちの居場所

#### ② 「牧場カフェ」月1回 土曜日

・牧場の自然環境を活かし動物のいる場を楽しみ、焚火でご飯作り・食育体験・野外体験の場

（内容） 牧場探検・ポニーのふれあい・ポニーの餌やり・食育体験・野外体験の場

#### ③ 「牧場ようちえん ぽっこ」

・未就学児・親子参加型・馬と動物の触れ合い・自然の中で五感が育つ活動。

（内容） 野遊び・馬のふれあい・引き馬・馬のお散歩・母の子育てワークショップ・自由表現遊び

### 事業効果

- ・自然の中で、いきいきと過ごす子どもの表情や姿がみられ、野外の時間を楽しみ、心を開放的にその子らしく過ごせる場となった。動物のいる環境に興味を持ち、地域で利用される方が増えた。
- ・参加した子どもたちは、ポニーの大きな体におっかなびっくりの様子もあったが、ポニーの愛くるしさ、優しさ、温もりを感じ、表情が柔らかくなり、自信をつけていく子どもの笑顔がたくさん見られた。
- ・不登校の子どもたちにとって、野外の環境は枠がなく過ごしやすく、ポニーの関わりやお世話の活動から経験が広がり、子どもの心と身体が育つ場・居場所となってきた。
- ・自然と動物のいる環境に興味を持つ方が増え、子育て中の大人や幅広い世代の利用者の方の広がりが見え、心を癒す場になってきた。



【ポニーのブラシがけによるふれあい】

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・自然とポニーのいる環境が、子どもたちの育ちの場が継続的な場になり、利用する方々が安心して人との繋がりが広がる場にしていきたい。
- ・ポニーに心寄せる子どもたちの時間が日常の場となり、地域で育ち合える場にしていきたい。

#### 【選定のポイント】

地域の子も達が自然や動物と触れ合いながら、伸び伸び成長できる場、また、保護者間が子育ての不安を互いに解消し、交流できる場とすることが期待される。

団体名	ぽこ あ ぽっこ	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	090-3442-0178 （上村）	事業費	865,204円
		支援金額	658,000円

## クラフトからはじまる村づくり 手仕事の温もりをつなぐ村づくり事業

### 取組に至る背景・事業の目的

原村は、昔から手仕事やクラフトが盛んな地域である。裂き織は、古い布を裂いて新たな布に再生させ使い切るといふ、環境に優しく、物を大切にする心を育む伝統文化として伝わる。しかし、地味な手仕事であり、従事者は高齢者が多く、子供や若い世代にはあまり知られていない。

裂き織とクラフトを知ってもらう為に「まちゼミ」を開催し、手仕事やクラフトをメインとした村全体の活性化、普及や次世代への継承へつなげた。村の事業者が講師となることで、住民が村内産業を知るいい機会となる。農業に従事する人の多い原村では、手仕事は閑散期の冬場に行われることが多い。それに合わせて「まちゼミ」を行った。裂き織やクラフト作家も兼業が多く、夏場は農業や観光で忙しい。冬の方が協力を得やすく、なおかつ活気のない冬場に原村を訪れる人を増やした。

多くの移住者は、自然が好きで転居してくる。村人より自然の素材の良さを理解しており、作品を作成することにも長けている場合もある。双方が交流する中で、心が豊かになるようなつながりが生まれる場になることを目的とした。

### 事業内容

まちゼミの開催を、2月1日～3月10日に村内各店舗で18プログラム行った。

店主が講師となってその店の専門的知識、技術、コツを教える講座を同一期間内に村内店舗にて実施し、周辺地域の人に伝える。一斉に取り組むことで目を引き多くの集客につながる。また、店主同士にも横のつながりができ、今後の新たな活動にもつながった。すべてのプログラムを少人数制とし、オンラインまちゼミといった手法も取り入れ、感染の拡大には注意した。県外からの感染拡大を懸念し広報の範囲を狭めたが心配する事なくほぼすべてのプログラムが満席となった。



【まちゼミで切り絵を作る参加者】

### 事業効果

- ・まちゼミ参加者 約150人
- ・期間を決め一斉に取り組むことで目を引き、多くの集客につながった。
- ・店主同士に横のつながりができ、講座も開催しやすく、今後の新たな活動にもつながった。
- ・新しい店舗、認知度の低い店舗や業種にはチラシや広告で露出効果が高まった。
- ・参加者同士や参加店との双方の交流があり、その後の人間関係の継続も見られた。
- ・イベントとして定着が見られ、観光連盟の組織としての認知度が上がった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

感染症の影響で研修会は一度のみとなった。昨年度より継続して参加の店舗が多くスムーズに行えたが、一部トラブルもあり事前研修の大切さを実感した。

すべてのプログラムを少人数制とし、その分、回数を多く開催したため当初より期間を延長した。また、オンラインまちゼミといった手法も取り入れ感染の拡大には注意した。県外からの感染拡大を懸念し、広報の範囲を狭めたが心配することなくほぼすべてのプログラムが満席となった。

一般の方がイベントで楽しむことに慣れてきたという実感があり、コロナ後を見据え、今後より一層こうした機会の創出が必要であると考えます。

#### 【選定のポイント】

継続的に、クラフトなど、地域の強みを活かしたイベント等を実施することで、地域住民のつながり深まり、さらなる活動への発展が期待される。

団体名	原村観光連盟	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0266-79-7072	事業費	447,180円
HP	<a href="https://www.haramura.com/">https://www.haramura.com/</a>	支援金額	357,000円
Mail	harakk@po19.lcv.ne.jp		

## 高等学校のキャリア教育コーディネート事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- 2022年度高等学校学習指導要領改訂に向けて、地域の高等学校では「総合的な探求の時間」が実施され、キャリア教育に重点が置かれている。
- 地域の教育界では、座学による学習だけでなく、生徒の興味関心事や生徒の抱いた課題を大事にした、体験型地域学習（総合的な探求の時間）を取り入れ、新たな学習スタイルが生まれている。このような教育変容の機会をとらえ、高校生が自分たちの生活圏における産業や人、文化と触れ合い、そこにある課題を見出し、自分たちでアクションを起こし、地域提案をしていく姿勢を養うための支援を実施する。
- これは、学習指導要領にある「主体的、対話的、探求的な学び」の実現につながる。
- また、高校と連携し、地域の中でのキャリア教育を推進することは、生徒が地域を知り、地域への愛着心を育むことにつながり、上伊那の産業や文化を担う人材の育成にもつながることが期待できる。



### 事業内容

- 伊那弥生ヶ丘高校  
「食品ロス」や「地元蕎麦粉の活用」等、地域課題の探究、調査・体験活動、地域の魅力等をドライブシアターで発信
- 伊那北高校  
「工場見学」や「食と農の体験」等、地域課題の探究、現地視察
- 上伊那農業高校  
「野菜や薬草、昆虫の活用」等、所属コースに応じた地域人との対話や体験学習、現地視察
- 辰野高校  
「建設関係」や「福祉関係」等、地域で働く多様な業界人に【地域人との対話・地域課題の探求】によるキャリアガイダンス

### 事業効果

- 生徒は社会の中で自分の役割を果たすことの大切さや自分らしい生き方の実現について考え、教職員は協働して地域を学び、地域講師は若い世代の考えを知る等、三者それぞれに学びがあった。
- 教職員は、生徒たちは協調性、実行力、思考力等の力が付いたと感じている。
- 地域の人と関わりながら、課題を見つけたり体験したりすることで、地域を知り、愛着心を育むことにつながった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 生徒が「上伊那」という地域の枠をもって、現状把握や課題を決め出せるように、講師は上伊那管内から多様な人材を決め出すよう工夫した。また学校の実情や学習の展開に合わせた講師や見学場所のコーディネートをを行うよう努めた。
- 生徒の学習に関わった地域の方からは、探究の時間への質問があったり、現在の高校生のありようについて知っていただく等、座学を超えた新しい教育への関心を示していただいた。
- 10年後の地域や生徒のありようを見据えて、より必要感をもって学習を展開していただくために、先生方への情報の提供や共有の場を今後企画していきたい。

#### 【選定のポイント】

今まで地域について学習する機会がなかった高校の普通科においても、探求的な学びのコーディネートをを行い、地域への愛着心を育むキャリア教育を推進した。  
南信州地域との連携も進めていることから、広域的な更なる発展が期待される。

団体名 郷土愛プロジェクト	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 上伊那広域連合地域振興課	事業費	1, 212, 000円
0265-78-2500	支援金額	969, 000円

## 下條歌舞伎の魅力発信プロジェクト スタート篇

### 取組に至る背景・事業の目的

下條歌舞伎は下條村重要無形文化財に指定されており、伝統芸能継承、後継者育成の取り組みを行ってきた。近年では、村内各地での自前の衣裳などでのこども歌舞伎の公演や、専門講師を招いての義太夫・三味線研修会による研修生の育成を図るなどの取り組みを行ってきた。

その中で、もっと地元住民に下條歌舞伎を知ってもらう機会の創出や、来村者などに関して情報発信を行うことを強化していきたいという目的ができた。保育園児は恥ずかしさがまだなく、歌舞伎を受け入れることが出来る年齢である。歌舞伎体験講座により、歌舞伎とはどんなものかを見て感じてもらう、その延長線上に保存会への参加や伝統芸能を守っていくという想いになってくれればという想いの中で事業を実施した。

また、下條村の玄関口である道の駅信濃路下條の休憩スペースにポスター及びタペストリーの展示を行うとともに、下條歌舞伎のパンフレットを制作、設置し、観光客等が興味を持ってもらえる環境の整備を行った。

### 事業内容

- ①令和2年11月23日に無観客で開催した、『下條歌舞伎定期公演』時に下條保育所の年長児参加の下條歌舞伎体験『下條カブキッズ』を開催した。
- ②ポスター及びタペストリー、下條歌舞伎のパンフレットを制作し、道の駅信濃路下條の休憩所スペースに設置した。



【下條カブキッズ上演時写真】

### 事業効果

- ①下條保育所のこどもにとって非日常の体験である浴衣や下駄、和傘などを練習時から身に付けてもらい、歌舞伎のセリフや所作を体験することによって、非常に積極的に歌舞伎体験を行ってもらえることが出来た。年長児2クラスのうち1クラスは保育園の行事でも発表をしたいと園児から声が出たとの話もあり、歌舞伎に触れた体験は子供たちに強い印象を残すことができた。今後の後継者育成や、親や祖父母も巻き込んで歌舞伎に対する良い印象を感じてもらえることができたと感じている。
- ②道の駅PRブース及びパンフレット制作により、道の駅を訪れる人などへのPRを行うことが可能となった。今後は、SNS等の活用も行いながら情報発信をすることが出来るスペースとして活用することが可能となった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後の取り組みとして、保育園児の歌舞伎体験事業については、下條保育所で継続して実施していくことが可能となった。また、他の保育園などへも歌舞伎を知ってもらうきっかけとしてカブキッズ事業を実施できたらと考えている。道の駅のPRブースに関しては、道の駅訪問者に下條歌舞伎を知ってもらうきっかけとして、パンフレットに記載したフェイスブック、YOUTUBE などへの情報発信を強化するとともに、パンフレットなどの配置も継続して行っていきたい。

下條村歌舞伎保存会は次年度で設立50周年を迎える。村内に唯一現存する合原皇太神宮舞台での公演の実現を目指し、また、後継者育成のために他地域を含めた公演への出演、他団体との交流など様々な活動を実施しながら、村民及び下條歌舞伎を応援してくれる方達、下條歌舞伎保存会委員と協働しながら活動が出来ればと思っている。

#### 【選定のポイント】

下條カブキッズや道の駅におけるPRコーナーの設置等の新たな取組により、下條歌舞伎の魅力が地域内外に発信できた。子どものみならず、保護者や歌舞伎関係者を巻き込んで下條歌舞伎を盛り上げていく機運が高まっていくことが期待される。

団体名	下條村歌舞伎保存会（下條村）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	下條村振興課経済係 0260-27-2311	事業費	969,899円
ホームページ	<a href="https://www.facebook.com/shimojokabuki">https://www.facebook.com/shimojokabuki</a>	支援金額	775,000円

## 遊ボール（あそぼーる）松本プロジェクト

### 取組に至る背景・事業の目的

本プロジェクトは、松本市の産学民の野球関係者（松本市野球場・松本大学・市内の硬式、軟式の少年野球の指導者他）と保育現場が力を合わせ、子どもたちの健全な成長に寄与することを目的とし、遊ボール野球教室を実施した。

多くの野球教室は子ども達の野球技術の向上を図ることを主な目的としてきたが、「遊ボール野球教室」は本格的な野球を教えるのではなく、「走る」「捕る」「投げる」「打つ」といった野球の基本動作を通じ、スポーツの楽しさ、幼児期からの運動習慣の推進を目指して活動を実施している。

### 事業内容

遊ボール野球教室の実施

遊ボール体操、ベースランニング、紙でっぽう  
ロケット投げ、転がるボールをキャッチ&スロース  
ストラックアウト、ダルマ落としバッティング  
ペールシャトル入れ 等の運動を実施。

対象：保育園児（主として年長クラス）

開催回数 22園 30回実施（各園1～3回開催）

のべ参加人数 園児 770名

コーチ 180名



【ダルマ落としバッティング】

### 事業効果

- ・『投げる』技術が目に見えて向上した。（特にドッジボール実施時に実感できるほど向上した）
- ・『打つ』は、バットを持った特殊な動きのため園で教えるのは難しいが、ダルマ落としを利用し、安全・安心に指導することができた。
- ・バトミントンのシャトルを使いペール缶に入れる競争を実施。バトミントンのシャトルは上投げをしないと遠くまで飛ばないため上投げの意識付けができ、下から投げる子が減った。
- ・1回目は、投げることを重点に置き、2回目は打つことも取り入れ、子どもたちの発達や関心に合わせた内容展開とした。
- ・これらの教室開催時指導により運動に興味を持つ子どもが増えるとともに、技術向上に貢献することができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により松本地域のみでの活動にとどまったが、今後は松本管内では塩尻地域での実施や、長野県青少年野球協議会と協力し、長野県全域での実施に向けて取り組む。
- ・松本大学硬式野球部、女子ソフトボール部に限定せず、人材育成の指導者講習を行い大学全体での事業を目指し、学生主導のプロジェクトの考案と共に、各地域においての人材育成の指導者講習を行う。
- ・幼少期に身に付けておきたい基本動作を1つでも多く取り入れ、バランスよく身に付けられるような内容の考案。

**【選定のポイント】** 小学校入学前の多くの子どもたちに、手法を凝らして、ボールで遊ぶ楽しさや運動能力の向上をもたらした。子どもの体力低下が叫ばれる中で、産学民が保育現場と連携して開催できている点は、高く評価できる。

団体名 遊ボール松本運営委員会 連絡先 0263-46-5555（松本市野球場内） ホームページ <a href="https://www.asobo-ru.com/">https://www.asobo-ru.com/</a>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">事業タイプ</td> <td>ソフト事業</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>1,510,720円</td> </tr> <tr> <td>支援金額</td> <td>1,208,000円</td> </tr> </table>	事業タイプ	ソフト事業	事業費	1,510,720円	支援金額	1,208,000円
事業タイプ	ソフト事業						
事業費	1,510,720円						
支援金額	1,208,000円						

## 十六夜観月文化推進事業

### 取組に至る背景・事業の目的

坂城町網掛地区の「十六夜観月殿」は、古くから観月の名所として知られており、郷人の手により大切にされ今に伝えられている。また、観月殿には、松尾芭蕉が更科紀行で詠んだ句をはじめ、多くの句碑が残されており、現在も毎年、観月会や俳句会を催すなど、地域の貴重な文化である観月殿の保存に取り組んでいる。

令和元年の台風 19 号の被害などにより、観月殿の茅葺き屋根の劣化が進んでいることから、茅葺き屋根の葺替えを行うとともに、記念の俳句会、パネル展などの事業を実施する。

### 事業内容

- 十六夜観月殿茅葺き屋根葺替え事業  
観月殿の茅葺き屋根の全面葺替えを実施  
体験イベントを開催し、地域の子どもたちも作業を体験  
茅葺部分：縦 7.2m×横 7.2m×高さ 3m
- 落成記念事業
  - ・落成記念冊子の作成、配布
  - ・記念俳句会の開催
- パネル展の開催
- 修復作業の映像記録の作成、小中学校での活用



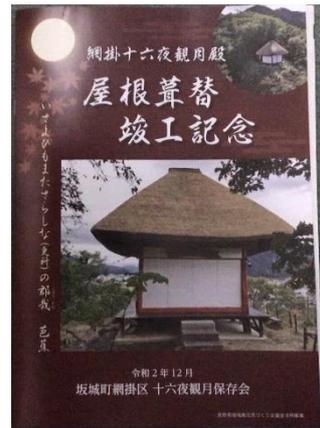
【葺き替え体験した子供達と職人】

### 事業効果

茅葺き屋根の葺替えには、職人の指導の下、地域住民・子どもたちが参加し、伝統文化への理解を深めるとともに、先人が大切に保存してきた観月殿を地域が主体となって継承していく意識が向上した。

また、記念の俳句会には、地域内外から例年を大きく上回る投句（120人、248句）が寄せられ、観月殿の認知度向上が図られた。

記念冊子や映像により、茅葺き屋根の葺替えの貴重な記録が残り、今後の観月殿の保存活動に活用されることが期待される。



【竣工記念冊子】

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

先人から受け継がれた貴重な観月殿の保存に取り組むとともに、観月や俳句など観月殿を取り巻く特色ある文化活動を通じて、地域内外に観月殿をアピールし、観月殿を大切にする意識の更なる向上を図る。

また、観月殿は、町の里山トレッキングコースのコース上にあることから、トレッキングに訪れる人に対し、町の生涯学習事業とも連携し、観月殿の景観と文化をアピールしていく。

#### 【選定のポイント】

十六夜観月殿の修復作業を地域で行うことにより、地域文化の保存ができたことだけでなく、地域のつながりを強めるとともに、ふるさとの歴史を学ぶ貴重な機会となったと考えられる。今後はこの観月殿を通じて、地域住民や子ども達、来訪者への地域文化の継承、PRにもつながることが期待される。

団体名	網掛区（坂城町）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	区長代理 清水政紀	事業費	6,773,375円
メールアドレス	souken2011@gmail.com	支援金額	4,915,000円

## 若者が地域に自分の出番を創る製革学習

### 取組に至る背景・事業の目的

不登校やひきこもりなど社会生活に困難を有する子ども・若者は、地方においても存在しており、これまで居場所や学ぶ場所づくりに加え、農作業や軽作業引き受けなど出番を作る活動を進めてきた。

猟友会との出会いから、野生鳥獣の製革作業を通じて、子ども達の中に、関心と自信をもって取り組む姿勢、さらに人のためになる活動をしていきたいという考えが芽生えた。

社会的自立に困難さを持つ地域の若者が、鹿革の製革技術の研究・実習を通じて、働く力、コミュニケーション能力、課題解決能力の向上を目指すとともに、自分達の出番づくりに取り組みながら、自己有用感や郷土愛の醸成を図ることを目的とする。

### 事業内容

- 製革技術実習
  - ・ 柔らかくする実習、脱毛処理、脱灰処理、なめし材漬け込み
  - ・ 地域にある自然由来のなめし材料の活用実験
- 試験販売に向けた試作品の製作
- 作業スペースの整備
- 地域の方々とのつながり作り
  - ・ 長野県立大学ソーシャルイノベーション創出センターと連携した、制作や販売につなげるための枠組み作り
  - ・ 地域づくりNPO団体と革製品のマーケティングを視野に入れたモニタリングの開催等



【野生鳥獣の製革作業】



【生徒達が制作した試作品】

### 事業効果

- 製革学習を通して、参加者のうち6名（正社員内定6名、パート就労2名）が就労と、3名の進学につながった。
- 猟友会や地域づくりNPO団体等地域とのつながりが生まれ、革製品販売の事業化に向けた準備が進められた。
- 試作品等の作成段階ではあるが、製品への問い合わせも寄せられ、事業化への関心が高くなった。
- 製革技術の向上し、鹿革18枚を製作した。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 周囲とのつながりを広げながら製革活動を行うことで、若者が物事に意欲的に取り組むとともに、自信を持ち、就労に繋げていく。
- SDGsを踏まえ、地域でとれる自然素材を使ったローカルナチュラルな革づくりを目指す。
- 地域の多様な人達とのつながりを作り、持続可能な事業を目指す。
- 若者の学習発表の場を開くとともに、販売に繋げていく。

### 【選定のポイント】

不登校や引きこもりなど、社会生活に困難を有する子どもの出番のきっかけを創るだけにとどまらず、就労者を6名輩出するなど、製革学習を通して、自己有用感や郷土愛の醸成を図ることで、自分の出番を創ることができる若者が増えるとともに、就労に繋がることが期待される。

団体名 特定非営利活動法人ぱーむぼいす	事業タイプ ソフト事業
連絡先 理事長 池田剛 0269-67-0415	事業費 1,022,048円
ホームページ: <a href="https://palmvoice.jimdofree.com/">https://palmvoice.jimdofree.com/</a>	支援金額 557,000円
メールアドレス: palm-voice2008@docomo.ne.jp	

## 子どもの環境・郷土学習に関わる事業

### 取組に至る背景・事業の目的

人口減少が進む中野市では、将来を背負う次世代人口も減少している。郷土中野市への理解を深め、郷土愛を育むことが、中野市の魅力ある地域の創造と発信において、将来の中野市を担う子どもたちには不可欠となっている。

市内の小中学生を対象に「中野市ふるさとドリル」や「中野市ふるさとドリル英語版」を配付するとともに、「第2回ふるさとジュニア検定」を実施し、ふるさと中野市への理解と郷土愛を深めることを目的とする。

### 事業内容

- 中野市ふるさとドリルの発行  
1,200部発行し、市内の全小学校（3年生全員）へ配布
- 中野市ふるさとドリル英語版の発行  
小中学校の教員が使用するための英語副読本を150部発行し、市内の全小中学校へ配布
- 第2回中野市ふるさとジュニア検定の開催（11月）
  - ・ 市内2箇所で開催
  - ・ 受験者へ、検定結果及び認定証を発行



【英語版ドリル編集作業】

### 事業効果

- 中野市ふるさとドリル  
小学校では、社会科の時間、総合的な学習の時間、社会見学のきっかけ作りや中山晋平記念館訪問の事前学習として、さらに施設見学の準備資料として活用されている。
- 中野市ふるさとドリル英語版（小学生、中学校用）
  - ・ 小学校では、教員から「ドリルは中野市に特化しており、中野市の特産物や歴史について英語に言い換える場面で勉強になった」等の感想が寄せられた。
  - ・ 中学校では、全学年でドリルが活用されている学校の例が報告されている。
- 第2回中野市ふるさとジュニア検定
  - ・ 受験者 12名（第1回は、17名）
  - ・ 平均点 91.0点（第1回は、80.1点）
  - ・ アンケートでは「中野市のことをもっと知りたいと思った」、「中野市は素敵な市だということを改めて思った」等の意見が記載されている。



【完成した中野ふるさとドリル】

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 中野市の小中学生に1人1台配備されている学習用タブレット端末でも「中野市ふるさとドリル」を活用できるように、環境を整えたい。
- 近隣市町村の小中学校の先生方からも、「中野市ふるさとドリル」のような教材を望む声も上がっており、他市町村での発行の可否について検討する。

#### 【選定のポイント】

中野市に関する歴史や産業、特産物等をドリル形式の副読本として小中学生に配布するとともに、中野市ふるさとジュニア検定の実施により、郷土への理解を深めることで、将来を担う子どもたちが郷土愛を育むことが期待される。

団体名 特定非営利活動法人 信州ふるさと郷育ネットワーク 連絡先 佐藤 026-295-5103 ホームページ: <a href="http://shinshufurusato.net/">http://shinshufurusato.net/</a> メールアドレス: <a href="mailto:sydsato@yahoo.co.jp">sydsato@yahoo.co.jp</a>	事業タイプ ソフト事業 事業費 946,000円 支援金額 756,000円
--	--

## 常和を元気にする復興まちづくり事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- 佐久市常和区では、台風19号により住宅の損壊、浸水被害、農地への土砂流入、山林の崩壊など過去に例のない大きな災害が発生した。
- 安心・安全に暮らし続けることのできる地域をつくるため、住民が主体となって地域防災力の向上やコミュニティーの再生に取り組む。

### 事業内容

- ① 広報・災害伝承活動
  - ・まちづくり活動や災害復旧事業の状況等をまとめた「復興まちづくりだより」の発行（全6回）
  - ・復興誌発行に向けた被災時の写真等の関係資料収集
- ② 避難体制の強化
  - ・災害時のリーダーとなる防災士の育成
  - ・県や市と連携した防災勉強会の開催
  - ・区独自のハザードマップ、避難基準の作成
  - ・一時避難所に関する近隣企業との協定締結
- ③ 復興拠点の整備
  - ・区民協働による被災箇所周辺の整備（土砂撤去等）
  - ・整備した復興拠点における災害ボランティア等を招いたイベント（復興大根収穫祭）の開催



【協働で防災マップ作り】



【復興大根収穫祭】

### 事業効果

- ① 定期的にまちづくり活動の状況を全区民や関係機関、報道機関などに情報発信することができた。
- ② 地域独自の取組みとして、雨量、河川水位を指標とした自主避難基準の策定や、近隣企業と一時避難所に関する協定を締結するなど避難体制の強化を図ることができた。
- ③ 多くの区民の参加により復興拠点となるつつじ公園の拡張や、ボランティアへのお礼イベントを開催し、新たなコミュニティーも生むことができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 災害復旧工事が行われる約4年間において、地域の防災力を向上させるために防災リーダーの育成による自主防災組織の強化や地域独自の避難体制の構築に向け、活動を継続していく。
- また、地形的な特性から将来同様の災害が発生するおそれがあるため、気象データや災害当時の様子などを世代へ伝承するための取組み（復興誌の編集）を進める。
- 楽しみながらまちづくり活動を続けていくために、復興拠点に多くの人が集まり、喜んでもらえるようなイベントも行っていく。

#### 【選定のポイント】

令和元年台風19号による区への大きな被害を受け、地域住民が主体となった避難体制の強化や、復興状況の区民への周知、復興拠点の整備による新たな交流の創出等、地域防災力の向上、地域コミュニティーの再生を図った。今後も、自主防災組織の強化や、災害状況の後世への伝承、他地域との連携を図る取組が期待される。

団体名	佐久市常和区	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	佐久市常和 1728	事業費	872,771円
		支援金額	690,000円

## 災害対応型ドローンによる地域防災力向上事業

### 取組に至る背景・事業の目的

自然災害から住民の命を守るためには、「未然(平時)の備え」と「災害(有事)の対応」が必要であり、自助・公助に加え、ドローン(無人航空機)を活用した先進的なシステムを構築することにより地域に密着した「共助」の行動を進め、すべての人々が安心・安全に暮らせる災害に強いまちづくりを推進する必要がある。

このため、災害対応型ドローンパイロットを養成し、認定したメンバーによる「ドローンパイロット部隊」を結成し、有事に即応できる仕組みを作る。

また、地域防災力向上の視点として、その地域の住民が地域の実態を熟知している事が大切である。そこで地域ごとの防災住民懇談会を開催して、ドローンで空撮した映像を見ながら危険箇所や避難路を確認し、災害を想定しての改善箇所などの意見交換・情報の共有化を図り地域防災力の向上を進めていく。

### 事業内容

諏訪広域において、自然災害から住民の命を守るためにドローンを活用した先進的な仕組みを構築し地域防災力の向上を推進する。

- ・災害対応型ドローンパイロットの育成
- ・ドローンパイロット部隊の結成
- ・ドローンを活かせる地域人材の育成
- ・地域防災住民懇談会の開催

### 事業効果

元気づくり支援金を活用して本格的ドローンパイロットの育成とドローンパイロット部隊組織化、地域や行政との連携により、地域防災住民懇談会を開催することができた。

①災害対応型ドローンパイロット養成講座(3日間)

特殊実技訓練(1日)を実施し、当協力会の試験に合格した者18人をドローンパイロットに認定することができた。

②「ドローンパイロット部隊：スカイアトムズ」を結成。

18人を隊員に任命した。

③一般市民を対象に、初心者入門講座や飛行訓練会を開催し、33人のドローンを活かせる地域人材を育成した。

④諏訪市の3地域において、地域防災住民懇談会を開催した。

ドローンパイロット部隊が空撮した映像を見ながら、災害を想定した危険箇所や避難経路の確認、意見交換を行い、地域防災力の向上に寄与することができた。



【ドローンパイロット養成講座】

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

災害対応型ドローンパイロットの育成については、長雨に悩まされて訓練の日程が大幅に崩れ調整に苦労した。また、20名の募集を行ったが、内2名が実技訓練に技量がついて行けず辞退者を出してしまった。

課題として、ドローンパイロットは経験者数がまだ少ないため、初心者入門講座等の回数や規模を拡大し、パイロットの裾野を広げる活動が必要。また、有事や訓練に際し、天候に左右されない機体取得が必須となる。

今後の取組として諏訪6市町村にパイロットが均等に配置できるよう、3年間で60人の隊員育成を目指す。平時の備えとして各地区、危険箇所等の航空写真や航空測量を行い、広域にわたりデータを蓄積し、有事の際、関係各所に有効な資料として提供できる体制を構築していきたいと思う。

#### 【選定のポイント】

地域防災力向上のために地域住民からドローンパイロットを募り、組織を結成・拡大することで、災害時の対応力強化が期待される。

団体名 NPO 法人諏訪広域ドローン協力会 連絡先 0266-75-2991 HP : <a href="https://suwa-drone.jp/">https://suwa-drone.jp/</a> メールアドレス <a href="mailto:info@suwa-drone.jp">info@suwa-drone.jp</a>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">事業タイプ</td> <td style="padding: 2px;">ソフト事業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">事業費</td> <td style="padding: 2px;">1,381,360円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">支援金額</td> <td style="padding: 2px;">1,105,000円</td> </tr> </table>	事業タイプ	ソフト事業	事業費	1,381,360円	支援金額	1,105,000円
事業タイプ	ソフト事業						
事業費	1,381,360円						
支援金額	1,105,000円						

## 「平成7年7月梅雨前線豪雨災害」伝承事業

### 取組に至る背景・事業の目的

長野県北部では、平成7年7月11日～12日に梅雨前線の活動による豪雨に見舞われ、2日間の降水量の合計は、小谷村で389mm、白馬村で333mmなど、200年超に1度の確率とされる大量の雨量が記録された。

白馬村、小谷村の両村では幸いにも亡くなられた方はいなかったものの、300戸近くの住宅被害、JR線路や国道の流出をはじめ、地すべり・がけ崩れ・山腹崩壊等の土砂災害などの甚大な被害が発生し、被害額は総額で910億円超に上った。中でも土砂災害は、地質が複雑・脆弱というこの地域特有の条件から、72箇所ですべて約167億円の被害が発生し、安全・安心な住民生活を脅かすこととなった。

災害発生から25年が経過し、復旧・復興事業の進展に伴い、地域の生活基盤は整備されたが、発災後に生まれた若年層をはじめ、災害の記憶は薄れつつあり、次なる災害に備えた防災意識の向上が課題となっている。

### 事業内容

災害から25年となる節目の時期に際し、当時の記録をあらためて振り返り、記憶の風化を防止するとともに、過去に実際に被災した地域から防災意識の向上に向けたメッセージを広く発信するための取組を実施した。

- テレビ番組の製作・放映（信越放送(株)）
  - ・30分番組として制作  
（発災日の7月11日にあわせて放映）
  - ・番組を収録した著作権フリー版のDVDを製作し、  
白馬村・小谷村の小中学校やCATVに配布



【砂防堰堤での撮影風景】

### 事業効果

- 番組視聴による防災意識の向上  
世帯視聴率 1.8%  
推定視聴世帯数 約15,000世帯
- 小中学生向け防災教育の受講による防災意識の向上  
100人/年×5年間 = 約500人（想定）

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

次代を担う若年層へのアプローチを強く意識し、若年層が興味を持てるような番組内容とした。従来より姫川砂防事務所と実施してきている「小・中学生への防災教育」における教材として番組収録DVDを活用できるものとしたことで、より効果的な取組に資するものと考えられる。

#### 【選定のポイント】

平成7年7月に地域を襲った梅雨前線豪雨から25年となる節目の年に、当時の記録を改めて振り返り、記憶の風化を防止するとともに、防災意識の向上に向けたメッセージをテレビを通じて県下に広く発信した。また、今後も小中学校の防災教育の教材としての活用が期待される。

長野県治水砂防協会姫川支部 0261-82-3100	事業タイプ	ソフト事業
	事業費	1,716,000円
	支援金額	1,320,000円

## 矢ノ沢地籍ザゼン草の里木道・遊歩道整備事業

### 取組に至る背景・事業の目的

諏訪地方の主要幹線道路である伊那街道（県道諏訪辰野線）有賀峠頂上付近に位置する、『矢ノ沢ザゼン草公園』内の老朽化した木道を2年かけて330m整備した。公園全体の5分の2が改修工事を終了したが、残る5分の3（420m）の未整備箇所は公園全体の景観を阻害することに加え公園全周を安全に散策することができず、来園者から全周の散策ができる木道の整備を懇願されていた。そうした中で、『長野県地域発元気づくり支援金』のお話を頂き3年計画で未整備箇所420mの整備を行い、来園者の安全確保と公園全体の散策ができ、ザゼン草に限らず公園内の希少植物の観察が行えることで地域の子供からお年寄り（老若男女）に応じた山野草見学プランを構築できる公園整備を目的に事業計画を策定した。

### 事業内容

- ハード事業
  - ・旧老朽化木道の園外搬出作業を地域住民（株主：208名）が4班に分かれて参加し、老朽木材の園外搬出を実施した。
  - ・業者により、新規木道の86mを施工して遊歩道に接道した。
- ソフト事業
  - ・豊田小学校の3年生60名が木道散策で自然と接し希少植物の観察を通じ森に興味を持ってもらう観察会を9/25実施。
  - ・観察会用に、ザゼン草公園内植物39種の植物図鑑パンフレットを作成し子供全員に配布した。
- 支援金対象外事業
  - ・園内草地草刈り・間伐作業及び鹿猪対策ネットの補修点検。



【旧木道の住民参加による搬出作業】

### 事業効果

- ・ザゼン草公園祭りは、新型コロナウイルス感染禍であったが累計1,200名の来園者で前年プラス200名の来園者が訪れて、安全に園内の周遊ができたこと好評であった。
- ・豊田小学校3年生の自然観察会は、木道散策で全員に配布した『植物図鑑』に当日見つけた植物を各自8種類以上記入して、帰りのバスの中で得意げに話していた。
- ・地域住民共同連携作業の旧木道搬出で、住民の地元の自然を再認識する機会となり、多くの住民が自然の中で作業する喜びも共有でき、コミュニケーションアップも図ることができた。
- ・旧木道の搬出作業を住民で実施したことで、外部支払い（377,300円）の削減を図った。
- ・ザゼン草公園内で、従来は荒廃した木道で散策できなかったエリアの希少植物を多くの人に鑑賞して頂ける施設として整備できた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・新型コロナウイルス禍での住民参加事業と豊田小学校の3年生の観察会にバスの乗車制限も含め作業人数の制限と一定距離の確保と手洗い・消毒・マスク着用と多くの対策を講じて望んだ。
- ・豊田小学校3年生の植物観察用『植物図鑑』は当社オリジナルでザゼン草公園内植物の写真を載せた構成で製本したもので、子供たちが季節ごとに植物観察をすることができる。
- ・残る240mの木道・遊歩道の整備を行い、森の保全と山野草の保護に努め、多くの市民及び観光客が訪れる景勝地として魅力を高めるため、地域住民・子供たちと協同の森いっぱい運動に取り組み自然の大切さに寄与する。
- ・木道整備と合わせ、園内を流れる一級河川上野川の親水と植物を身近に感じる場として、上野川を活用したミニ水力発電に挑戦して、近隣のソーラー発電事業と合わせ自然エネルギーを学べる環境の整備。

#### 【選定のポイント】

地域住民が協働で整備した遊歩道を、子どもの学習の場、地域住民の憩いの場とすることに加え、多くの観光客に訪問してもらい、自然を身近に感じる場とすることが期待される。

団体名 有賀林野株式会社	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 TEL 0266-58-2020	事業費	4,210,800円
メールアドレス rinya@po28.lcv.ne.jp	支援金額	2,877,000円

## 南信州山岳文化振興事業

### 取組に至る背景・事業の目的

南信州広域は近い将来においてリニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通が見込まれるが、魅力的な観光素材がなければ単なる通過点となるばかりか、ストロー効果により地域の有形無形の財産を首都圏や中京圏、また東海地域に奪われかねない。

当地域の他にはない観光素材は、赤石山脈最南部にある深山幽谷の素晴らしい景観を有し、生物多様性を誇る悠久の大自然（原生林）であり、これを活用したエコツーリズム山岳観光（エコ登山）を確立することを目的とする。

### 事業内容

- ①旧遠山森林鉄道軌道敷の登山道として復旧・整備や通行に支障のある登山道の整備
- ②新型コロナ対策にもつながるレンタルテント・キャンプ場の設置による日本百名山にアプローチしやすい宿泊環境整備
- ③登山ツアーを誘致するための山岳ツアー会社や山岳情報誌を招いたファミトリップや滞在型ツアーの催行と広報
- ④エコツーリズム推進法による観光振興や地域活性化を図るための基礎となる自然観光資源の調査と保護ルールやモニタリング事項の検討



【面平レンタルテント・キャンプ場】

### 事業効果

- ①国道から入山できる登山道として、全長約 10 km の旧遠山森林鉄道軌道敷を整備復旧した他、易老岳、聖岳、大沢岳、奥茶臼山の登山道を整備し登山環境を整えた。
- ②「面平」と「西沢渡」にそれぞれ設備・備品を備えたレンタルテント・キャンプ場を整備し、ここをベースにすることで「光岳」「聖岳」へのハードルが下がり、これまで健脚向きといわれた山域であったが、一般的な登山客でも手が届くものとなった。
- ③ファミトリップ参加者によりレンタルテント・キャンプ場を活用した登山ツアーが企画されたり、全国的に情報が拡散されたりして、新たな市場開拓に成功しつつある。
- ④有識者から得た分野ごとの情報を整理し、来訪者に分かりやすく自然観光資源を説明できるストーリーマップの原案を作成できた。
- ⑤活動の中で、「遠山山の会」「遠山郷観光協会」「地元商工会議所」等との連携関係を生み出すことができ、エコツーリズム推進協議会の設置の基礎を築きつつある。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後は、飯田市や他の関係機関・団体と連携を取りながら、エコツーリズム推進法の枠組みでこのプロジェクトを進められるよう態勢を整える。

- ①登山環境の整備  
「赤石岳」への登山道の通行に支障のある箇所を整備する他、水場、トイレの整備を行う。
- ②レンタルテント・キャンプ場の利用者の拡大  
「面平」と「西沢渡」に設置したレンタルテント・キャンプ場に多くの登山者を誘致し、エコ登山の実践者を拡大していく。
- ③ファミトリップや滞在型ツアーの催行による地域経済の活性化  
上記のキャンプ場や整備した登山環境を活用したファミトリップや滞在型ツアーを催行し、地域観光の振興による地域経済の活性化を図る。
- ④エコツーリズム推進法に基づく「全体構想」の環境大臣等の認定  
関係機関・団体で構成する「エコツーリズム推進協議会」を設置し、「全体構想」を策定する。環境大臣等の認定により、実効性のある自然保護活動を内包するエコツーリズムの考え方による登山の実践地としてのブランド化を図り、多くの登山観光客を迎え入れる。

### 【選定のポイント】

登山道の整備やレンタルテント・キャンプ場の設置により、エコツーリズムに基づいた山岳観光の基盤が整った。会の活動は新聞や雑誌で度々取り上げられ、全国的に注目されており、エコ登山の取組が地域内外に広がることが期待される。

団体名 一般社団法人南信州山岳文化伝統の会（飯田市）  
連絡先 原 一樹 (090-7705-9025)  
ホームページ <https://www.mstb.jp/sangakubunka/>

事業タイプ ソフト事業  
事業費 2,443,360円  
支援金額 1,954,000円

## 東山公園環境整備事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- 東山公園は大正天皇の即位を記念して大正4年に整備された自然公園で、過去には監視哨の場所として使用されるなど地域と歴史的な繋がり深い公園であった。しかしながら、戦後、時代と共に利用されなくなり、貴重な地域資源が埋もれてしまっていた。
- 近年、東山公園の再活用のお話が出され、地元保存会が中心となって環境整備に努め、整備計画を定めた。整備計画に基づき、東山公園の魅力をもっと高め、不特定多数の利用者が安全に利用できる環境の整備を目指す。

### 事業内容

- 利用者の安全を確保しつつ、公園下部から山頂付近まで低木花木類による一体的な景観をつくるため、主に公園下部の修景整備を実施した。主として下層処理後の跡地に地元小学生児童や地元住民と協働でミツバツツジ等の低木の花木を植栽した。
- 公園山頂付近の危険な枯損木等を伐採した。
- 訪れた方が楽しみやすく、確かな情報が得られる環境をつくるため、代表的な樹木等について、樹名板を設置した。
- 公園を活用する際の注意事項及び周辺観光情報等を表示する看板を公園内に設置した。



【地元住民との植栽作業】

### 事業効果

- 公園下部の修景整備により、公園の景観が向上した。当事業の取組を受けて、周辺でも環境整備が行なわれ、相乗効果を生むことができた。
- 注意喚起看板や樹名板を設置することにより、公園としての価値が向上した。
- 植栽作業参加者  
地元住民 17名、地元小学校児童 45名
- 危険枯損木伐等採作業参加者  
地元住民 10名
- 地元住民による公園利用  
読書保育園園児・・・延 150名/年（散歩コースとして活用）  
小学校低学年・・・延 40名/年（学校授業として活用）

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 公園の大きな整備事業は終了したため、今後は植栽した花木を維持していく。東山公園を中心として、周辺に存在する他の観光資源を結び付けて、地域としての観光コンテンツの向上を図りたい。

**【選定のポイント】**  
 自然を満喫することができる山林公園としての機能を向上させるための取組を、計画的に実施したことにより、今後の地元住民や観光客の利用について期待できる。また、多くの地元住民を巻き込んで環境整備や植栽作業を実施し、本事業の取組を受け、周囲でも環境整備が行われるなど、地元住民の意識も向上させた。

三留野地域振興協議会 (事務局：南木曾町役場) 0264-57-2001 (代表)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
	事業費	3,379,075円
	支援金額	2,670,000円

## 信州・上松イルミネーション事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- 上松町では冬季にこれといった観光素材がなく、観光客も減少している。そこで、冬期における観光を盛り上げるため、竹とLED照明を組合せた「竹イルミネーション」を作製し、町内に設置することで、冬期における町の観光素材の一つとして、地域の活性化に繋がるよう期待し、平成30年度から開催している。
- 年々規模を拡大しており、認知度も高まってきていると感じているが、令和2年度はメイン会場である上松町寝覚マレットゴルフ場への設置だけでなく、イルミネーションの設置を町全体に広げ、当事業について町内外含め広く認知してもらえることを目指す。

### 事業内容

- 「信州・上松イルミネーション」の開催
  - 期 間 令和2年12月19日～令和3年3月14日
  - 場 所 上松町寝覚マレットゴルフ場  
町内企業・店舗・個人宅前
  - 規 模 作製した竹イルミネーションを  
上松町寝覚マレットゴルフ場に約600本設置  
町内企業・店舗・個人宅前に約60本設置
  - 対象者 町民及び観光客
  - 鑑賞料 無料
  - 製作者 実行委員会メンバー、ボランティア
  - 周 知 郡内にポスター掲示、新聞折り込みでチラシ配布



【メイン会場の様子】

### 事業効果

- 来場者 約650名（令和元年度来場者 約1,100名）  
新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊客や宴会の利用も激減、来場者も昨年を大きく下回った。
- 郡内主要施設にポスター掲示 50箇所
- 新聞折り込みでのチラシ配布 8,120枚
- 上松町観光協会の協力を得て、上松町中心部にイルミネーションを設置することができ、マスコミにも大きく取り上げられた。また、隣の大桑村では、中学校の授業に取り入れられるなど、当事業の認知度の高まりを感じた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、来場者自体は減少してしまったが、上松町だけでなく大桑村へもイルミネーションを広げることができ、少しずつ地域に広がっていると感じている。3年間の実績を無駄にすることなく、これからも上松町は元より、近隣の町村にも宣伝し、取組を広げていきたい。
- 旅行会社と連携を強化し、竹イルミネーション見学ツアーを開催するなど、自己財源で事業を行えるよう検討していく。

#### 【選定のポイント】

手作りのイルミネーションの設置をメイン会場だけに留まらず、町全体に広げ、他地域でも同様の取組が行われるなど、高い波及効果があった。

信州・上松イルミネーション実行委員会 （上松観光開発有限会社 ねざめホテル） 0264-52-2245	事業タイプ 事業費 支援金額	ソフト事業 838,300円 629,000円
---	----------------------	-------------------------------

# 「小諸の米」ブランド化事業

## 取組に至る背景・事業の目的

- 水稲を始めとした農業を取り巻く環境が、大変厳しい時代を迎える中、市内で農業に携わる経営体が持続的可能な農業を営み、豊かな生活を送れるかが課題となっている。
- 持続的な農業を目指すため、関係者・組織が連携し、「小諸の米」及び地域のお米の魅力向上を図り、収益力の高い農業構造を実現する。

## 事業内容

- 令和4年「第24回米・食味分析鑑定コンクール：国際大会 in 小諸」への協力体制を構築するために、大会実行委員会を組織化した。
- 「令和2年米づくり学校・小諸」と題し、米づくりの勉強会を3回開催した。
- 地域の機運の醸成のために以下の事業を実施した。
  - ・ 専門家を招いた小諸市米飯官能鑑定士養成講座の開催
  - ・ 「第1回お米コンクールこもろ&第2回 JA 佐久浅間一番うまい米コンテスト」の開催
  - ・ 第22回米・食味分析鑑定コンクール：国際大会 in 富士山の小諸市からの出品（米）



【お米コンクール】



【米飯官能鑑定士養成講座】

## 事業効果

- 市や関係行政機関及び民間団体を構成員とする大会実行委員会を組織化した。
- 3回開催した米づくりの勉強会に延べ85名が参加し、地域の水稲生産者のスキルアップにつながった。
- 以下のとおり、地域の機運の醸成が図られた。
  - ・ 鑑定士養成講座を開催し、新たに46名の鑑定士が誕生した。
  - ・ コンクール及びコンテストに、佐久地域の生産者から235検体におよぶ出品、約200人の来場者があり、鑑定士等による食味審査を実施し、令和2年産の佐久地域で一番おいしいお米を決定した。
  - ・ 第22回米・食味分析鑑定コンクール：国際大会 in 富士山への小諸市からの出品米が増加し、50件となった（前年度比156%増）。

## 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

○年度当初に関係団体の協力体制を組織化し、事業に取り組んだことで、着実に地域の水稲生産者のスキルアップと国際大会に向けての機運が醸成されつつあります。この機運を途切れさせることなく令和3年度も事業を継承し、裾野の拡大を目指したい。

**【選定のポイント】**  
 専門知識を持った講師による鑑定士養成講座や、地域で一番おいしいお米を決めるコンクール等を開催することで、地域のお米の魅力向上、収益力の高い農業構造の実現を図った。  
 今後も、生産者のスキルアップや、ブランド化に向けた取組を通じて、地域の農業振興につながることが期待される。

団体名 小諸市農林課	事業タイプ ソフト事業
連絡先 0267-22-1700	事業費 1,620,628円
<a href="https://www.city.komoro.lg.jp">https://www.city.komoro.lg.jp</a>	支援金額 1,296,000円
<a href="mailto:noshin@city.komoro.nagano.jp">noshin@city.komoro.nagano.jp</a>	

## 入野谷そば復活夢プロジェクト 収量拡大及びPR事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- 高遠・長谷地区には古くから入野谷在来種というそばが存在していたが、戦後の食糧難対策のために栽培を奨励した信濃一号の普及により一度絶滅したかに思われていた。
- その後有志の搜索により、奇跡的に種が発見された。その量はわずか20g。その中で発芽したのはたった6粒であった。その後、種を増やしていき、栽培・収穫・出荷するまで復活した。
- この入野谷在来そばの収量をさらに増やし、地域振興へつなげるため、品質管理をするための保管用冷蔵庫を設置する。
- また、入野谷在来そばを認知拡大させるため、HPを作成しSNSとあわせて広くPRを行うとともに、種まきや収穫イベントを開催し、地域住民と共同作業を通じて周知していく。

### 事業内容

- 入野谷そば振興会拠点施設に保管用冷蔵庫2台を設置
  - ・2台で30kgの米袋56袋が収納可能
- 入野谷在来そばに特化したHPを作成
  - ・発見からのストーリー、提供店舗の紹介等
- 収穫イベント
  - ・伊那北高校1年生30人が圃場見学
  - ・発見からのストーリー、目標・課題等を学習



【設置した保管用冷蔵庫2台】

### 事業効果

- 収量拡大
  - ・[令和元年] 7,900㎡、収穫高500.6kg
  - ・[令和2年]13,000㎡、収穫高2,418kg(委託分込) 前年対比約480%増
  - ・保管用冷蔵庫に全て保管し、品質を落とすことなく出荷することができた。今後も収量拡大に注力することができる。
- PR事業
  - ・コロナ禍のため、地域住民の公募を取りやめ、収穫・脱穀作業に有志のそば店店主が参加。
  - ・参加した店主がSNSで発信し周知した。
  - ・収量が増え認知度も上がると、入野谷在来そばを食べに来る人も増え、地域振興につながる。
  - ・伊那北高生約30人に入野谷在来そばを周知することができた。うち3人が今後の活動に参加希望。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

入野谷在来の品質の向上は今までも取り組みを行ってきたが、引き続き課題と考える。現状の品質に満足する事なく今後も品質向上に取り組んでいきたい。また生産圃場が増えるにしたがって品質のばらつきが出てくる。その品質のばらつきに対してどのように対応するかも今後の課題になってくる。

#### 【選定のポイント】

絶滅したかと思われた入野谷在来そばの復活に取り組み、令和元年には地元そば店に出荷するまでに復活させた。

契約をした地元そば店での提供や、HPでの紹介を通じて「幻のそば」として付加価値を高め、地域振興への寄与や事業の発展性が期待される。

団体名	入野谷そば振興会	事業タイプ	ハード事業
連絡先	伊那市役所 長谷総合支所 農林建設課 0265-98-3140	事業費	994,950円
		支援金額	663,000円

## 健康な食が健康な体を育む。～環境保全型農業の推進～

### 取組に至る背景・事業の目的

松川町の遊休農地は、年々増加傾向にある。令和元年度から、農地を次世代に継承していくためにも、今までの活動と同時に、住民1人1人のかかわりが大切になると考え、1人1坪農園の推進を行った。子育て世代の皆さんに、野菜作り、食に興味を持っていただけるよう事業を行い、無農薬、無化学肥料で栽培した食材の学校給食の試食会でも、例年より多い50名以上のお母さん方が参加され、安心安全な食に対する関心が高いことが分かった。

令和2年度の活動として、「健康な体は健康な食べ物から」、身土(しんど)不二(ふじ)の考えのもと、家庭菜園から始めた1人1坪農園の活動を1歩進め、松川町の豊かな自然や気候風土の保全・再生のために環境保全型農業の推進を掲げ、環境に優しい農業による松川町産農産物を子供たちの食事(給食)に提供し、松川町の農業振興と、子供たちの健やかな成長の実現に寄与することを目的とする。

### 事業内容

- ①遊休農地対策として、農地を持たない方の農業への関心・取組を促すため、野菜づくり指南番組の制作・ケーブルテレビでの放映を実施。菌ちゃん先生こと、吉田俊道氏の講演会及び圃場での体験会を実施し、食の安全・健康な土壌づくりについて学んだ。
- ②環境保全型農業を目指し、自然農法国際研究開発センターの講師の皆さんに、有機栽培、自然農法についてのノウハウを実証圃場にて学んだ。生産者向け講演会としてSOFIX農業推進機構の久保教授の講演会を開催し、有機物の土壌診断について学んだ。
- ③実証圃場で栽培した作物を学校給食へ提供した。栄養士、搬入業者(もなりん・学校給食会)の皆さんと打ち合わせを行い、提供可能となった。



【長ネギの実証圃場で  
インセクターリープラントの  
ソルゴーとマリーゴールド】

### 事業効果

- ①ケーブルテレビでの放送。全11回。問い合わせ等も増えた。区画割していたふれあいガーデンはすべてに申し込みあり。番組で紹介したはらぺこ君(町で作っている生ごみたい肥)の売り上げが伸びた。研修会には、コロナ禍ではあったが各回70名ほどの参加があり、年配の方のみならず、親子での参加もあった。
- ②実証圃場は5か所を設定し、栽培を進めながらの土づくりや、土づくりをしてから栽培開始するなど、指導を受けながら実施。講演会などのPRにより参加者も増えた。マニュアルは、デジタルにしたことにより多くの方に見てもらえるものが完成した。SOFIX講演会には生産者(果樹栽培)の皆さんが参加し、遊休農地対策として目指している内容を知っていただいた。
- ③学校給食に7月から順に栽培できたものを提供した。目標にしていた数字には届かないが、新たな1歩を踏み出せた。保育園児の体験圃場では、ジャガイモ・カブを栽培し、コロナや長雨の影響で全園の体験は実施できなかったが、食材を利用していただけました。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

実証圃場に取り組んでいただいた皆さんで、「ゆうき給食とどけ隊」という組織を結成し、自主的に活動を行っていただいている。自然のやさしい農法を学び、緑肥やインセクターリープラントを利用し、生物多様性、循環型農業による野菜づくりを進めていただいた。引き続き、菌ちゃん先生による講演会及び親子体験会の継続により啓発活動を進める。

学校給食への提供については、提供数の増を図り、栄養士の皆さんのほか、調理師の皆さんにも圃場見学等を行っていただき、環境にやさしい農産物の栽培についての理解を深めたいと考える。学校給食だけでなく、病院や福祉施設への食材提供を検討する。

町の総合計画では、SDGsに取り組み、持続可能な地域を構築していこうと考えている。持続可能な農業の推進につなげられるよう今後も取り組みを行う。

#### 【選定のポイント】

本事業を通じて、子どもから大人まで多くの町民に農業への関心を持ってもらうことができた。今後も官民一体となった取組を進めていく予定であり、遊休農地の解消や新規就農者の増加につながることを期待される。

団体名	松川町役場産業観光課・農業委員会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0265-36-7027	事業費	1,376,039円
メール	sangyou@town.matsukawa.lg.jp	支援金額	1,079,000円

## 新規就農者の地野菜生産・加工を中核にした就農支援事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- 近年、人口減少により、農業の中核を担っていた方の高齢化が進む中、地野菜の生産体制が弱まり、営農に限界が迫り、村の特産品の作付面積及び収穫量も、ここ数年減少している状況であった。そこで、令和元年度から若者や定年退職者、Iターン者への新規就農支援事業を実施し、地野菜生産拡大及び地域の農作業受託組織王滝村地域農業合理化組合（以下合理化組合）の再編を目指した。
- 地野菜生産拡大を進めると同時に、加工体制の確保・商品化も行う必要がある。
- 今後の王滝村の農地を高年齢農業者に代わって担っていけるよう、合理化組合が中心的に経営体へ発展することを目標とする。

### 事業内容

- 特産品の生産拡大を目指すため、講習会を開催し、質の高い地野菜生産や新たな商品開発に取り組んだ。
- 労働力を機械化でカバーすると同時に、作業員の負担を出来るだけ少なくするよう、効率の良い作業形態の確立と人材育成に取り組んだ。
- 加工や商品化の作業部門の労働者の補充が出来るよう、Iターン者等の新たな担い手を育成し、高齢指導者が元気なうちに技が伝承できるよう共同作業の場と機会を設定し、加工体制や生産性の向上を図った。



【春の王滝かぶ収穫体験(名古屋市民)】



【そば用 新コンバイン講習会】

### 事業効果

- 新規就農者及び2年目参加者育成が活発に実施された。
- 機械導入により初心者によるそば栽培を実現。  
(播種機導入でそばの省力化栽培・短期間の収穫作業実現)
- 合理化組合の新規オペレーター  
そば播種4名・刈取り2名育成。
- すんき等加工作業員育成と夏すんき生産・販売本格化。  
【水稻】 R1 作付面積3.9ha →R2 作付面積3.9ha  
【そば】 R1 作付4.9ha 収穫1.4t →R2 作付5.1ha 収穫3.2t  
【王滝かぶ】 R1 作付0.7ha 収穫10.7t→R2 作付0.7ha 収穫5.5t (凶作による)

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 農業の中心経営体育成に向けた人・体制づくりを充実させることができた。これからは、王滝かぶ生産も守るため、春秋の栽培等において、合理化組合も効率の良い生産体制を構築する必要がある。同時に村内の漬物加工作業員育成にも力を入れ、夏すんきの特産化を少しずつ拡大させるなど、王滝産そばとのコラボレーションにも力を入れる必要もある。最終の取組となる令和3年度は、営農活動におけるIターン者等の活躍を村外へ向けて大きく情報発信し、王滝村の高品質な地野菜生産が初心者の農業者を中心に展開されていることをPRして、今以上に王滝村への移住希望者を増やし、長期を見据えた定住促進と営農の持続を目指す。

#### 【選定のポイント】

かぶ・そば・水稻の生産振興と、荒廃農地解消、担い手育成（機械オペレーター育成）対策が連関して実施されている。特に、地域の農業の担い手を確保する農業講座を実施し、機械の使用方法などベテランの農家から直接学べる機会を作るなどソフト面での取組が評価できる。

王滝村役場 産業振興課 0264-48-2001	事業タイプ	ソフト・ハード事業
	事業費	4,463,990円
	支援金額	3,359,000円

## 飯山のそばによる元気な地域づくり事業

### 取組に至る背景・事業の目的

飯山市内のそば生産は、多くが遊休荒廃地対策等から始まったため、生産規模が小さく、安定した経営がなされていなかった。

このため、飯山そば振興研究会は、安定したそば生産と地産地消による経済効果の向上を目的として発足し、取り組みを進めてきた。

これまでの活動で安定したそば生産が図られるようになり、そばの製品化とともに豪雪地という特性を活かした雪室熟成そばのブランド化等の高付加価値化を図り、地域の経済効果を高める取り組みを中心に進めた。

### 事業内容

- 6次産業化を推進するための高付加価値化の推進
  - ・ 麺製造から包装、一次保存（冷蔵）までの工程に対応した商品の開発
  - ・ そば粉とつなぎ（中力粉、強力粉）の配合を調整した商品の開発
- 情報発信・PR
  - ・ 飯山そばのブランド構築に向けたロゴマークの作成
  - ・ 「飯山雪室熟成そば」の商標登録
- そばの打ち手育成
  - ・ 毎月1回、年12回開催し、一定の技術を習得した者には修了証を発行
  - ・ 二八そばは6名受講、富倉そばは8名受講



【玄そばの雪室熟成作業】



【そばの打ち手育成講習会】

### 事業効果

- 事業着手から3年目を迎え、地域でのそば栽培が進みコンバインの稼働面積の拡大とともに、乾燥調製検査数量が増加した。

収穫面積 H30: 8.4ha → R2: 18.2ha

乾燥調製検査数量 H30: 197袋 → R2: 716袋

- 「飯山雪室熟成そば」を商標登録するとともに、下高井農林高校そば班とコラボレーションしたことで、飯山市のふるさと納税の返礼品に採用された。
- 製麺や一次保存が可能となるとともに、商品開発が進み、地元そば店への提供に加え、通信販売や直営飲食店「棚田の社ほくずい」の運営も始まり、6次産業化が推進された。
- 二八そばや富倉そばの打ち手を計画的に育成することができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 当初計画では、製麺して都市部で消費宣伝活動を行い販売につなげる予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の収束に目途が立たなかったため、地産地消を基本とする事業に方向転換した。
- 製麺から飲食、担い手育成までを行う「棚田の社ほくずい」を中心に、飯山そばの振興を図る。
- 雪室熟成商品の開発を進めるとともに、他業種とのコラボレーションによる事業拡大により、運営の安定化を図る。
- 下高井農林高校そば班との連携等による、そばの打ち手育成事業の充実に取り組む。

### 【選定のポイント】

飯山そばの振興に向けて、そばの収穫、製麺を手掛け「飯山雪室熟成そば」としてブランド化につなげるとともに、下高井農林高校そば班と連携した担い手育成等にも力を入れている。新たに、「棚田の社ほくずい」を開店し、販売も手掛けるなど、継続的な事業の実施や地域活性化につながる活動として期待される。

団体名 一般社団法人飯山そば振興研究会 連絡先 0269-62-3111 （飯山市役所経済部農林課内）	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">事業タイプ</td> <td style="padding: 2px;">ソフト・ハード事業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">事業費</td> <td style="padding: 2px;">5,020,186円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">支援金額</td> <td style="padding: 2px;">3,776,000円</td> </tr> </table>	事業タイプ	ソフト・ハード事業	事業費	5,020,186円	支援金額	3,776,000円
事業タイプ	ソフト・ハード事業						
事業費	5,020,186円						
支援金額	3,776,000円						

## ヒシ除去による環境整備とヒシの実を活用した地元特産品開発事業

### 取組に至る背景・事業の目的

ヒシの繁茂は諏訪湖全面を覆っている状況にあり、毎年県の事業で刈取船が導入され、計画的な除去が実施されているが、全てではない。湖全体を覆うヒシは景観・環境整備に問題があると地域住民より指摘があり、特に本年はコロナ禍の影響により住民参加によるヒシ取り作業が実施できていない。ヒシや水草は船舶の航行や漁への影響があり、諏訪湖へ訪れる方々に対して観光面におけるイメージが悪い。

ヒシの処理の仕方として焼却もしくは堆肥化され活用されているが、処理に対するランニングコストは高い。そこで、ヒシの最終処分のあり方について今後考え直し、「負」のヒシを「利」に変えるための取組を検証することによって、ヒシの有効活用を図ることとした。ヒシの実を活用した地元特産品が開発されることで諏訪湖に対するイメージアップに繋がると同時に、諏訪湖の環境改善へと結びつくことが期待される。

### 事業内容

諏訪湖のヒシの繁茂は年々増加しており、特に本年度はコロナ禍の影響によりヒシ刈り作業ができない状況にあった。

そこで、船舶航行や漁への影響もあり船舶を扱う専門的なスポーツ団体としてヒシ除去作業を実施した。また、コロナ対策を講じて諏訪湖創生ビジョン推進会議構成メンバーなどの協力によって事業が以下のとおり実施できた。

#### ●船舶を活用したヒシ取り作業

ヒシ取り・向き取り作業・期間（全5回）

8月14日（金）9月19日（土）9月20日（日）

9月26日（土）10月3日（土）

#### ●ヒシの実を活用した地元特産品開発

ヒシの実（中身）を活用した試験的醸造（焼酎・リキュール）



【ヒシの実を剥きだす様子】

### 事業効果

諏訪湖の日制定により諏訪湖への愛着が芽生えてきており、コロナ禍の影響もあったが、多くの方々に積極的に参加していただけた。また、これらの取り組みが報道等を通じて住民からの評価もいただき、今後に繋がる事業へと期待される。また、学生たちの参加者も多く、積極的なボランティア活動へと展開する運びとなった。地元特産品開発として行った試験的醸造については味わい深いお酒に仕上がりに、事業報告会及び試飲会において関係者から講評をいただき、今後商品化するに値する高評価をいただけたことは大きな成果である。同時に、学生たちはお菓子作りを行いヒシの実（中身）の有効活用が図られることの証明ができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

ヒシの実（中身）を剥きとるまでの作業工程に課題があり、ものづくりの諏訪として特殊な機械開発にも目を向けていただけたら商品化への近道となる。

次年度以降は、船舶を改造して刈取船を導入する計画を立てているがエンジン購入について各種団体企業などの協賛を考えていると同時に、元気づくり支援金の有効活用も図られたい。

#### 【選定のポイント】

地元の高校生等が参加した、ヒシ除去による環境整備と、負のイメージのあるヒシを地元特産にするための商品開発という2つの効果が期待される。

団体名	NPO 法人諏訪市セーリング協会	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	横山真 090-3143-7910	事業費	736,000円
Mail	helmsuwako@yahoo.co.jp	支援金額	588,000円

## A I ・ I o T 展開のための人材育成事業

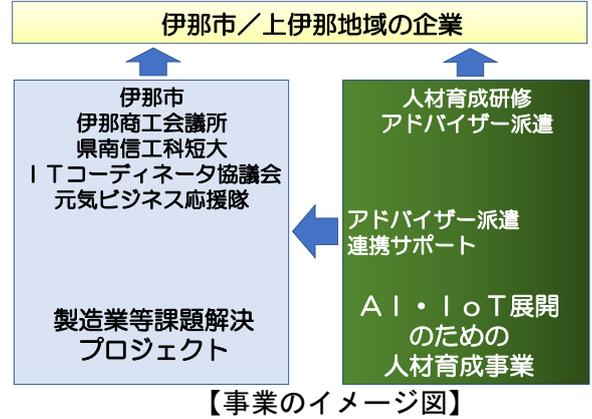
### 取組に至る背景・事業の目的

- A I ・ I o T 導入と更なる展開に携わることのできる中小企業の人材育成を支援し、上伊那全体の工業界の底力 UP、異業種連携を促進する。
- 自治体との協力をベースに、元気ビジネス応援隊（GBO）アドバイザーや I o T コーディネーター等の地域人材及び、県南信工科短大の教員、設備等の知的財産の活用により、「産学官支」による地域が一丸となった事業モデルとして発展させていく。

### 事業内容

- 企業内における問題・課題発見支援
  - ・ 2人1組のアドバイザーによる約70社の企業訪問、問題・課題の掘り起こしとアドバイス
- 問題・課題解決のための A I ・ I o T 導入支援
  - ・ 15社に対し、対策検討と I o T 機器導入計画サポート
  - ・ 定期的に情報交換会実施
- 自治体・支援団体との連携
  - ・ 課題解決プロジェクト参画を活用した周辺地域への展開
  - ・ I T コーディネーター協議会との協力体制
- 人材育成研修
  - ・ アドバイザー講師8人による人材育成研修会15講座（経営改善1、工程改善3、品質改善4、技術講座7）

「産学官支」による産業振興・雇用拡大を目指し！



【事業のイメージ図】

### 事業効果

- I o T 導入及び対策検討企業10社のうち、6社が導入に至った。
- I o T 関連ベンダー5社との関係を構築し、導入に向け活動中。
- 県南信工科短大・I T コーディネーター協議会との連携により支援効果が向上した。
- 伊那市との取り組みが上伊那全体への足がかりとなった。
- 中小企業の経営改善や社員教育につながった。
- 経験あるシニア世代の社会参加活動の増とスキルアップにつながった。
- アドバイザー講師8人による人材育成研修会に184人が受講し、各企業で研修内容を実践中。



【アドバイザー講師による人材育成研修会】

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 元気づくり支援金活用の大きな意義は、「産学官支」による事業モデルとして成果を上げ発展させるところにあるが、各方面からの評価も得られきっかけづくりとして一步を踏みだせたことを実感した。
- 工夫・苦労した点
  - ・ 担当メンバー全員が趣旨を理解しベクトルを合わせる事が最重要であり、頻りにアドバイザーによるミーティング、プロジェクト関係者との定例会を実施、情報共有とアイデア出しを密にした。
  - ・ それぞれが本業を持っている立場のため、日程調整には苦労をした。
  - ・ 対象となる企業の温度差にも対応に苦労をした。
- 今後の課題
  - ・ 成果を着実に広げていくために、主に以下の取り組みに重点を置く。
  - ・ 各方面へ働きかけ、上伊那全体にくまなく展開する。
  - ・ 支援メニューの間口を広げ奥行きを深める。
  - ・ アドバイザーのさらなるスキルアップを図る。

#### 【選定のポイント】

自治体との協力をベースに、元気ビジネス応援隊アドバイザーや I o T コーディネーターなど地域人材及び、南信工科短大の教員が連携した支援事業により、一定の効果をあげた。  
ウィズコロナ時代は新たなチャンスでもあるため、積極的な展開を期待したい。

団体名	公益財団法人上伊那産業振興会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	伊那技術形成センター 0265-76-5661	事業費	1,762,779円
		支援金額	1,399,000円

## 松本・安曇野におけるユニバーサルツーリズム推進の為に 地域トラベルサポーターの養成及び実証実験

### 取組に至る背景・事業の目的

- ・長野県観光部においては『信州型』ユニバーサルツーリズムを推進しており、当 NPO 法人でも三大特徴の一つ「地域でのサポート体制の充実」のために各種事業を実施してきた。
- ・この体制における地域トラベルサポーター制度は信州ならではのバリア（山や自然）を乗り越え、旅をあきらめている人々にとっても逆に長野県の山や自然は誰でも気兼ねなく行ける場所であるという認識を持っていただけるよう事業活動を行っており、これは元気づくり支援金の重点テーマでもある「地域資源を活かした広域観光の推進」に繋がるものと考えている。
- ・このような中で、市民レベルではユニバーサルツーリズムを推進するための「心のバリアフリー」の理解が進んでいないこと、温泉入浴サポートや市街地観光サポートは進んできているが、山や自然などバリアがある地域でのサポートには結びついていないこと、障がい当事者や家族への情報提供が少なく、「信州の山や自然」に出かけることが可能かどうかや、旅館等の福祉用具情報が乏しいなどの課題を解決するために本事業を実施することとした。

### 事業内容

- ・松本・安曇野地域を観光する車椅子ユーザー向け Youtube 動画配信（実施期間 2020 年 6 月～2020 年 12 月）を実施。実際に車椅子で観光している様子（バリアフリー状況）を動画配信することで、障がい当事者に、よりリアルな観光地の様子が伝わりその観光地に安心して行けることの実践例を取り上げた。
- ・ユニバーサルツーリズムの機材整備として以下の物品を購入した。

車椅子シートクッション  
ハンモックロープ  
チルト式リクライニング車いす



【作成した動画】

### 事業効果

- ① 観光地を車椅子で歩くことによって、車椅子利用の障がい者でも普通に観光地に来ることが出来るアピールとなった。また、Youtube 動画配信を行うことによって、多くの方の目に触れ、車椅子障がい者の方への理解を進めるとともに、障がい当事者及び家族への情報提供が行えた。
- ② 上高地などの山岳リゾートにおいてもサポートが出来ることを発信した。
- ③ 戸隠神社においては、ネイチャーガイドや戸隠観光協会様との連携が行えた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

【課題】 新型コロナ感染症の為、令和 3 年度以降の観光需要の見通しが不透明。

【今後の取組み】

- ・収束後は、今回の経験を踏まえ、実際のお客様のサポート風景を Youtube や Instagram に掲載していく。
- ・人的サポートがあったとしても移動手段が無いと、希望する場所へ行くことが出来ない。公共交通機関を経由して、介護タクシーとトラベルサポーターを活用した観光の提案を行って行く。
- ・平成 30 年から開始した本事業において養成した地域トラベルサポーターの観光地研修を今後は形を変えて継続して実施していく。

【選定のポイント】 障害の有無に関わらず、旅を楽しむことができる環境を整えることは、誰もが生きやすい社会を創造していくことにつながる。そのような社会の創造に寄与する事業として評価できる。

団体名	特定非営利活動法人 ユニバーサルツーリズムながの	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	TEL 0263-50-6049	事業費	404,921円
Web	https://www.ut-nagano.com	支援金額	322,000円
Mail	info@ut-nagano.com		

## 「花ごはん」で楽しむ白馬 Alps 花三昧・2020 事業

### 取組に至る背景・事業の目的

白馬村のグリーンシーズンのイベント「白馬 Alps 花三昧」を盛り上げるため、エディブルフラワー（食用花）を使った料理や花をモチーフにした器で食事を楽しむ「花ごはん」の取組によって白馬村を訪れる皆様をおもてなししている。この取組にちなんで昨年度に開発した「花ロールケーキ」を白馬の特徴ある土産品としてPRし、「花ごはん」の取組を地域全体に広げて地域活性化を目指すとともに、白馬村の新たな魅力発信を目指す。

### 事業内容

- 「花ごはん」体験・カフェパーティーの開催
  - ・「花ごはん」の提供事業者や観光関係者を対象に実施し、ブルフラワーへの理解を深めてもらい、花ロールケーキの周知、利用促進を図った。
- 「花ロールケーキ」のPR、販売促進
  - ・取扱い業者の開拓
  - ・パンフレット作成
  - ・観光情報誌への掲載
- HP、SNS による情報発信
  - ・白馬村観光局のHPに「花ごはん」専用バナー設置
  - ・Facebook による情報の継続的発信



【カフェパーティーの様子  
(コロナ対策を徹底して実施)】



【花ロールケーキ】

### 事業効果

- カフェパーティー 参加者数 42 人
- 「花ロールケーキ」販売取扱い事業者数 11 件
- 「花ロールケーキ」取扱い数量 263 個
- 「花ロールケーキ」白馬村ふるさと納税返礼品 5 件
- 白馬村観光局 HP 経由での Web による情報発信 1,496 件
- 観光情報誌への掲載

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今年度から本格的に販売を開始した「花ロールケーキ」は、販売数量を伸ばしているが改良点はまだ残っていると感じている。アンケートのご意見なども踏まえ、今後さらに白馬のお土産として印象に残る、そして使い勝手のよいものにしていきたい。また、活動を通してコロナウイルスの影響は非常に大きいと感じた。特に観光関係事業者を中心に地域のモチベーションそのものが落ちていく様子を目の当たりにした。コロナの収束時期は予想できないが、地域の連携と知恵と工夫をもって、「花ごはん」「花ロールケーキ」の取り組みを続け、白馬村の観光を特色づけるとともに、地域を元気にする活動を今後も地道に続けていきたい。

#### 【選定のポイント】

「花ごはん」「花ロールケーキ」の取り組みが、白馬村を特色づける新たな名産品となることが期待できる。

白馬 Women's Club 0261-72-7111 (白馬ラネージュ東館 内)	事業タイプ 事業費 支援金額	ソフト事業 1,418,072円 741,000円
---	----------------------	---------------------------------

## グリーンシーズン自転車観光誘客事業

### 取組に至る背景・事業の目的

大町市を中心としたエリアは、美しく変化に富んだ景観などが魅力で、この地域で開催される「アルプスあづみのセンチュリーライド」は多くのリピーターを獲得している自転車愛好者に大人気のサイクリングイベントとなっている。

しかし、自転車を観光の1つの選択肢として一般の観光客を対象とするサイクルツアーやレンタサイクルの認知度は低い状況である。このため、受入環境の整備や一般観光客への情報発信を行いサイクルツーリズムの推進を目指す。

### 事業内容

- サイクリスト受入れ環境整備
  - ・サイクルステーションの位置や市内のコースなど自転車関係の情報を集約したHPを作成
  - ・サイクルステーション活用勉強会を開催
  - ・自転車を活用した誘客についての講演会を開催
- 一般観光客への自転車観光の情報発信
  - ・eバイクツアーの開催
  - ・ワイヤレスガイドシステムを利用した新しいガイド方法の確立
  - ・FM長野との共催ツアーでの広報
- eバイクレンタルの利用促進
  - ・レンタルしやすい料金へ改定
  - ・HP、SNSによるレンタル情報の発信



【サイクルツアーの様子】

### 事業効果

- サイクルステーションの増加（前年42件→51件）
 

サイクリストが多く来店する店舗からの設置申込があった。結果として、サイクリストにとって必要な箇所へのサイクルステーション設置が進み、受け入れ態勢は整ってきた。また、サイクルステーション活用勉強会を開催したことでステーション同士で情報交換や意見交換ができ、ステーション間のつながりができた。
- サイクルツアー開催による大町での自転車観光の周知
 

FM長野との共催事業としたことで通常の広告出稿の数十倍の募集告知ができた。
- eバイクレンタルの利用増（前年40台→214台）
 

レンタルしやすい料金としたことで気軽に利用してもらえた。SNSで情報を収集してeバイクレンタルを目的で来られる方が多くいた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- サイクルステーション間をつなぎ、お客様へのおもてなし方法やサイクルラックの設置の仕方などの情報を共有化し、サイクルステーション全体の質の向上に努めていく。
- レンタサイクル利用者に対して、市内を探索して楽しんでいただける新たなコース作りをして紹介できる体制にしていく。
- FM長野との共催ツアーなどで次年度も広く県内にPRし、自転車観光の定着を推進していく。

#### 【選定のポイント】

eバイクツアーの開催やサイクルステーション活用勉強会の開催等によって、地域のサイクルツーリズムの推進に貢献した。

大町市観光協会 https://kanko-omachi.gr.jp/cycling/ info@kanko-omachi.gr.jp	事業タイプ 事業費 支援金額	ソフト・ハード事業 4,706,851円 3,616,000円
---	----------------------	---------------------------------------

## 北信エリア 地元産酒類のツーリズム資源化推進事業

### 取組に至る背景・事業の目的

北信エリアのツーリズムの状況は、来訪者の意欲促進や地域内滞留時間及び消費金額の拡大につながる地域資源の活用が十分とは言えず、地域全体としての課題となっている。このエリアには 20 ほどの清酒メーカーがあるが、生産者と地元関係者が市町村の枠を超えて連携し、地元産酒類を「地域の宝」として地域活性化の資源とする動きになっていない。

本事業では、地域全体でツーリズム対応に取り組み、数年のうちに「北ながの酒」が大きな資源となり、地域に経済的・社会的効果をもたらすことを目指す。

### 事業内容

#### ① 2020 年「北しなの酒蔵オープンデー」実施

オンラインでの YouTubeLive 配信の形態で実施。日本酒や長野県、交通機関にゆかりのあるタレントが北信濃エリア 15 蔵を実際に訪れ、それぞれの蔵と酒を味わい、そのリアルな様子を生配信という形で全国に発信。また、酒蔵や商品・蔵人紹介だけでなく、地元の公共交通機関を利用し、移動風景も含めて沿線の美しい風景と共に酒蔵周辺の魅力も合わせて伝えることで、コロナ終息後にこの地を訪れてみたいくなる構成とした。さらに、実際に巡った様子を収めた YouTube ライブをアーカイブ版にし、当日以降いつでも誰でも視聴できるものにした。



【北ながの酒蔵オープンデー】

#### ② ながのエールフェスタ 2020 ながの市「新そばと食の市」へのブース出展

全 18 蔵それぞれの酒の特徴や味覚を直接的に PRするとともに、実際の酒や蔵人に触れる機会を作り、この地域の魅力を発信した。

### 事業効果

オンライン形式にしたことで、これまで県内と東京中心の顧客層だったものから関東一円から東海圏、さらには全国にまで当地の酒蔵と北長野の魅力を発信でき、若い方や女性層、またこの地域を知らなかった層にまで訴求ができた。

- ・ YouTubeLive 視聴回数（アーカイブ再生含む）  
1 日目 13,214 回再生、2 日目 6,795 回再生(2021/11/5 現在)
- ・ 「新そばと食の市」への来場者 5,000 名。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

新型コロナウイルスの状況が見通せない中、当地へのリアルな来訪はまだ先になる可能性がある。今回の取り組みを一過性のもので終わらせないために、内容を工夫し継続的に実施することで、当地の魅力をさらに広い層に PR し、アフターコロナにおいて本当に来訪してくれるファン層を開拓することが必要と考えている。また、台風 19 号、コロナからの復興の一助となり地域の元気を発信する取り組みにする。

#### 【選定のポイント】

発信力のある人物による YouTube からの発信により、北信地域の観光資源である酒と酒蔵にスポットを当てたエリアツーリズムの発展に寄与するとともに、長野地域の酒蔵の魅力を広く発信につながった。

団体名	北信エリア 地元産酒類の ツーリズム資源化推進実行委員会（長野市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	北ながの酒トレイル・プロジェクト事務局 担当：中條	事業費	5,386,679円
ホームページ	<a href="https://sake-pjt.com/">https://sake-pjt.com/</a>	支援金額	4,308,000円

## 須賀川地区フットパスコース“盆じゃもの”開設事業

### 取組に至る背景・事業の目的

高齢化や人口減少が進む須賀川地区において、地域資源を有効活用し、地域の暮らしを応援するとともに、都市との交流をとおして地域活性化に取り組んできた。

地区を通るとりで街道は、平成 29 年に「新日本歩く道 100 選、ふるさとの道」に認定されたが、一部は廃道となりつつあるため、歴史ある街道をフットパスコースとして整備し、都市と田舎、人と人の交流をとおして地域活性化につなげることを目的とする。

さらに、町内住民向けにフットパス体験会を開催し、子ども達にも歴史文化に触れる機会を創る。

### 事業内容

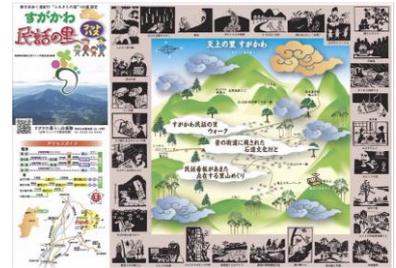
- フットパスコースの整備、開設
  - ・ とりで街道と区内道路をフットパスコースとして整備
  - ・ フットパスコースの体験を通じた交流会の開催
- ガイド養成と講演会の開催
  - ・ フットパスコースを説明する地元ガイドの養成
  - ・ フットパスの効果に関する講演会の開催
- 「フットパス協力の家」の創設



【フットパスツアーの開催】

### 事業効果

- フットパスコースの開設と体験会等の開催により、地域の歴史や文化の紹介と様々な人との交流が生まれた。
- とりで街道も一部廃道となりつつあったが、フットパスコースとして整備し、人々が歩き、“道”として復活することができた。
- 子ども達が地域の歴史に関心を持ち、故郷への愛着心が育まれた。
- フットパスの参加者等
  - ・ 体験会、イベントの開催 11 回
  - ・ 参加者 95 名
  - ・ 住民ガイド養成 2 名
  - ・ 「フットパス協力の家」登録軒数 5 軒



【フットパスコースマップ】

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- 新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、感染対策を講じながらの開催となった。
- フットパスは、コロナ禍でも出来るフィジカルトレーニングとして、多くの来訪者を招き、地域活性化に寄与する。
- 現在のフットパスコースに加え、延命地蔵コース、みそずだんごコースを増設し、様々なニーズに対応したフットパスを提供していく。
- フットパス協力の家の登録軒数を増やすとともに、「協力の家」に野菜試食直売所“農家みせ”を併設していく。
- 小学校、公民館にも体験会への参加を提案するとともに、他の小学校や、他の公民館へ新たに参加してもらえるよう働きかける。
- 旅行業者に対し、旅のアイテムとして提案していく。

### 【選定のポイント】

フットパスコースを整備した「とりで街道」においてイベントや学習会を開催することで、地域住民や子どもが郷土の歴史文化に触れるとともに、都市住民向けのイベントを通して、多世代交流や他地域との交流が広がり、地域の活性化が期待される。

団体名	すがかわ暮らし応援隊	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 代表	外山俊 0269-33-6383	事業費	893,102円
ホームページ	: <a href="http://sugakawa-kurashi.ytown.net/">http://sugakawa-kurashi.ytown.net/</a>	支援金額	695,000円
メールアドレス	: shunren@sirius.ocn.ne.jp		

## 武石銀座のにぎわいを地域の力で取戻す事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- 誰もが車で素通りしてしまうような小さな商店だけれども、元小林商店の昭和のゆがんだガラスの向こうから軽快なジャズが聴こえると、ふとアクセルを緩め、入ってみたくなる。そんなぬくもりのある街を創りたいという想いが事業の始まりです。
- 武石商店街はかつての賑わいは影を潜め、コミュニティーとしての場が武石地域から無くなりつつあります。そこで、武石風土つなぎ隊は、「つながろう、支えおう、元気プロジェクト」をメインテーマに掲げ、H25年より様々な趣味特技を持つ個人・団体と協働しながら、地域の賑わいを取り戻す活動を続けてきました。その成果は少しずつ形になっていると思います。
- R2年は、コミュニティーとしての確固たる場を商店街に取り戻すため子供から大人までみんなが集える拠点(つなぐ家)を作りました。



【「つなぐ家」の様子  
～武石小学校2年生お買い物体験～】

### 事業内容

- 武石商店街にある空き店舗を活用して住民が気軽に立ち寄れる交流拠点「つなぐ家」を開設した。地域住民になじみのある小林商店の雰囲気を残し、整備した店舗内に大きな黒板を設置し交流スペースと販売スペースを設けた。
- 「つなぐ家」とその周辺で、H28年から商店街の空き店舗を利用した「武石おさんぼギャラリー」を続けて開催。R2年もライブやワークショップ、マルシェ、及び隣接の小学校体育館で子どもから大人まで楽しめる「第4回集まれ仮装大賞」を開催した。

### 事業効果

- 「つなぐ家」では地元農産物、日用品、手作り雑貨等を販売するスペースとジャズレコード鑑賞等の趣味で憩うスペースを設けたことで、世代を超えた交流、出品者・生産者との交流が生まれた。また、地元の人々や地域外の方々と新しいつながりが広がり継続的な賑わいを生み出すコミュニティーの場となった。
- 「つなぐ家」来店客数（7～10月のうちの3カ月間実績 1,029人、日平均 57名、月平均 343名）  
「おさんぼギャラリー2020秋」来場者数 293人 前年対比 93人増（+47%）

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- コロナ禍において交流拠点を運営することに苦心した。閉店を余儀なくされた期間は、感染予防に気を付けイベントを縮小しての実施や、花束や朝採りもろこしを店前で販売する等で継続した。エリアトークで逐一オープンをお知らせすることでつなぐ家を耳から知ってもらい、住民に関心、期待を持ち続けていただくことを心掛けた。
- 「つなぐ家」開店日数を増やして欲しいという要望に対し、現在メンバーでの対応は難しいため住民主体でのスペース活用という形にした。現在ジャズ鑑賞会を毎週開催しているが、もっと様々なスペース活用を検討していきたい。
- 更なる賑わいを生み出すために、産直野菜の販売システムを構築し、食品加工なども行っていきたい。更に児童館や小学校が近隣にあることで作品展示、お買い物体験など教育機関との連携にも取り組む。
- 武石への移住定住を考え、情報の場、くつろぎの場、ネット環境の整備された場を念頭に古民家再生にも力を入れていきたい。

#### 【選定のポイント】

- ・交流拠点を整備し、住民協働によるイベントを開催にすることにより、かつて賑わっていた地元商店街を復活させる契機となった。
- ・交流拠点を常設することにより、世代を超えた地域の交流が広がり、継続的な地域の賑わいを創出した。

団体名 武石風土つなぎ隊（上田市） 代表 柳沢裕子 メールアドレス kt875854@zc4.so-net.ne.jp	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">事業タイプ</td> <td style="padding: 2px;">ソフト・ハード事業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">事業費</td> <td style="padding: 2px;">1,205,876円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">支援金額</td> <td style="padding: 2px;">896,000円</td> </tr> </table>	事業タイプ	ソフト・ハード事業	事業費	1,205,876円	支援金額	896,000円
事業タイプ	ソフト・ハード事業						
事業費	1,205,876円						
支援金額	896,000円						

## 「好きを仕事にする」女性が地域密着・世代を超えて スキルアップしながら活躍できる機会を創出する事業

### 取組に至る背景・事業の目的

近年、諏訪圏周辺には移住者も増え、知識、技術、特技を持つ女性が多く居住している。しかし、子育てや介護など家庭の事情で自分の特技を活かしている環境ではなく、将来的に活かしたいと思いつつ、具体的にどうすればよいのかわからない状況にある女性が少なくないのが現状である。当事業では、自分が好きなこと、特技を将来的に活かし、起業や個人事業主としての活躍を考えている女性達に、活躍の場と交流の場を提供することで、地域で活躍できる女性を多く創出することを目的として活動を行ってきた。2018年4月からは、「地域発 元気づくり支援金」平成30年度及び平成31年度事業の事業としてご支援をいただき、認知度の向上をはじめ、活動の幅を広げてきた。本年度事業は、さらに地域密着度を高め、世代を超えて活躍する女性を増やす機会を創出することを目的として実施した。

### 事業内容

当事業では、特技や活かしたい技術を持つ幅広い年代の女性達に、実践的ワークショップを開催する機会としてのワークショップの場をつくり、さらに親子のクリスマスワークショップの場、おばあちゃんが活躍できる場づくりなどを行った。なお、今回は主催者として今後活躍する人材の輩出を目的として、3人の講師による5回連続講座も実施し、10人の具体的な一歩を後押しした。

- ・実践的ワークショップの開催 11回
- ・異世代間の交流を促す講座「おばあちゃんといっしょ！」の開催 11回
- ・異世代間の交流を促す講座「おやつクラブ」の開催 11回
- ・特別企画連続講座「やりたきややっちゃいなよ！」の開催
- ・親子対象クリスマスワークショップの開催



【連続講座「やりたきややっちゃいなよ！」最終日公開プレゼンテーション後の風景】

### 事業効果

起業や地域貢献等での様々な形で女性達が活躍していく場づくりにつながる機会となった。この3年間における認知度の向上により、告知広告を使わず定員になるワークショップもあり、認知度の向上を確認できた。

- ・講師として活躍した女性 14名
- ・自分の企画を主催し、行動に移す女性 10名
- ・講師として活躍する場を実感し、自分の可能性も試してみようと思えた人の増加（延べ参加人数）121名
- ・子ども出店やワークショップを通じて親子で活躍してみようと思えた人の増加（延べ来場者数）100名

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・今年度はさらに地元密着、世代を超えた交流、年間を通じてじっくり繋がりをつくる要素を加えたことで、より充実して、「好きを仕事に」を現実化する女性を増やしていくことができた。ウェブサイトやチラシ、SNS広告等により告知の効率化を図ることで、より多くの女性達の可能性を引き出し、活躍できる機会につなげていきたいと考えている。
- ・そして、今後は活動で培ったノウハウと運営方法を多くの人に伝え、それぞれが柔軟にやりたいことを通じてつながりを実感でき、活躍できる場づくりが活発につくられていくことに貢献していく。

#### 【選定のポイント】

地域内で自分の強みを活かした仕事に就けることで、女性の活躍の場の増加、多世代間交流の促進が期待される。

団体名 YAZIPEN DE WORKSHOP 実行委員会  
連絡先 090-2753-9743 (林美代子)  
<https://yazipen-workshop.com/>  
[info@yazipen-workshop.com](mailto:info@yazipen-workshop.com)

事業タイプ	ソフト事業
事業費	1,009,343円
支援金額	624,000円

## 池田つむぐプロジェクト

### 取組に至る背景・事業の目的

池田つむぐプロジェクトは、「池田町の未来を若者が調べ考え紡ぎ出す」をテーマに始まりました。池田つむぐの特徴は、大学の枠を超えて学生が活動していることです。

池田町をフィールドに、信州大学・長野大学・その他大学の学生たちが地域づくり活動に関わることを通して地域を活性化させることを目的に、地域住民と協働して池田町の空家問題や子育て等の課題についての解決方法を探り、実践してきました。

大学生を含む第三者の立ち位置だからこそできる関わり方で地域住民の皆さんや行政などと協力して、産学官の連携活動をめざしネットワークを構築していきます。

### 事業内容

- 池田未来会議
  - ・これまで3年間の池田つむぐプロジェクトの活動の成果報告を実施
- 地域内外への活動情報の発信
  - ・フリーペーパー「いけだいろ」への記事寄稿
- 講座の開催
  - ・つむぐ講座（計4回）  
地域活動の全国の事例等についての講座を開催
  - ・地域住民に開かれた子育て・教育関係の講座を開催
- 地域でのイベント開催
  - ・関係人口創出をテーマに広津地区においてイベントを複数回開催し、地域のお祭りを復活
- 空き家活用入門書の作成
  - ・空き家問題について、背景から活用方法まで包括的に記載したパンフレットを作成し、町内全戸回覧を行った他、町役場や公共施設等に配布



【池田未来会議（zoom開催）】

### 事業効果

- 3年間の池田つむぐプロジェクトを通して100名以上の大学生が池田町を訪れ、池田町の魅力・課題を学んだ。
- 地域の方々との連携も生まれ、広津地区での空き家の改装や、社会福祉協議会主催の「ふるさとチャレンジ塾」で大学生企画を作るなど、継続的に活動を行う基盤ができつつある。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 地域のみなさんや関係者に活動の周知が進んだことを活かしながら、今後も大学生が関わり続ける仕組みを作っていく。
- 今までの活動を踏まえ、地域の課題解決を地域の主体となる方々と協力しながら活動を継続していく。
- 学生だけでなく、町内の中高生や町外で活動するイノベーターも併せて組織された団体としての構築を行っていきたい。

#### 【選定のポイント】

大学生が主体となり、地域住民や行政を巻き込んで地域の課題解決に向けた調査・研究と成果の報告が行われ、世代間の交流や地域活性化に向けた課題の共有が図られた。

今後も、若者が関わり続ける仕組みを作りながら地域課題の解決に向けた取組が継続されることが期待できる。

池田つむぐプロジェクトチーム ikedata.tumugu@gmail.com	事業タイプ 事業費 支援金額	ソフト事業 604,512円 458,000円
--	----------------------	-------------------------------

## 365日大学

### 取組に至る背景・事業の目的

人間はいつまでも人から感謝され、自分の存在が社会に大きな役割を果たしているという認識が必要である。「いつまでも元気でワクワク楽しい人生を送る。」「最後まで社会と関りを持つ。」このような考え方を実践するため、シニア世代を対象として、フレイル予防やサキベジに関する学習会など各種講座や、会員による講座を開催するほか、農業支援や子ども食堂の運営などのボランティア活動を実施する。

### 事業内容

人生の第2周期を、寝たきりや閉じこもりにならず、また時代に取り残されたり孤立化したりせずに、イキイキと毎日の生活を送ることができるよう、次の事業内容を実施。

1. Zoomを活用したオンライン講座
2. 農業支援
3. 認知症予防特別講座
4. サキベジ健康特別講座
5. ボイスフィットネス特別講座
6. 地附山トレッキング



【オンライン講座の様子】

### 事業効果

- ・シニア（平均年齢72歳）の人がオンラインZoomを活用して学ぶという誰も信じていなかった世界を“やればできる”で実現し、これからシニアが活躍できることを体現した。
- ・学びや活動を通じていつまでも元気で健康なシニアやその活躍の場を創出するモデル的事業となった。
- ・同世代のシニアの人々に「365日大学の会員のようにになりたい」、「そういう風に年をとっていきたい」と夢を与えることができた。
- ・NHK『イブニング信州』、SBC『ずくだせテレビ』で放送されたことで、同じ思いを持つシニアが増えた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

Zoomを学んだことにより世界が広がったなどの会員の声を受け、オンライン講座の充実・拡大や、経験を積んだシニアだからこそできる“脱炭素社会”への啓蒙活動に取り組む。

1. 平日オンライン（Zoom使用）講座の充実・拡大
2. ボランティア事業の実施（農業支援グリーンツーリズムの実施）
3. 会員の『人生、午後4時マイストーリー』の発刊
4. 脱炭素社会の推進（脱炭素農業、耕作放棄地の改善、セミナーの開催、情報発信等）
5. 脱炭素アイデアコンテストの実施や脱炭素社会啓蒙絵本の発行

#### 【選定のポイント】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため講座をオンライン開催に切り替えたことにより、シニアがPCやZoomの活用等を始めとした新たな挑戦を始めるきっかけや活力を創出した。また、コロナ禍であっても交流や学び、地域活動を行える環境をつくることで、参加者の生きがいがいづくりや地域活性化にも寄与するなど、モデル性の高い事業となった。

団体名	365日大学（長野市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	校長 小山秀一	事業費	4,887,224円
メールアドレス	koyama@asc-hotpal.co.jp	支援金額	3,909,000円